

目次

標準活動トピックス： 事業仕分けと標準化	2
	山中 豊（経済産業省 情報電子標準化推進室）
最近の国際会議から： JTC 1 (Information Technology) 総会報告	4
	石崎 俊（慶應義塾大学）
JTC 1/WG 6 会議報告	5
	平野 芳行（日本電気(株)）
JTC 1 SWG on Directives 会議報告	6
	大蒔 和仁（東洋大学）
SC 2 (Coded Character Sets) 総会報告	7
	関口 正裕（富士通(株)）
SC 17 (Cards and Personal Identification) 総会報告	8
	廣川 勝久
SC 34 (Document Description and Processing Languages) 総会報告	10
	小町 祐史（大阪工業大学）
SC 36 (Information Technology for Learning, Education and Training) 総会報告	12
	仲林 清（放送大学）
2010年3月以降 国際会議開催スケジュール	14
情報処理学会試行標準のページ：IPSJ-TS 0012	15
	新田 恒雄（豊橋技術科学大学）
JIS 公示：JIS X 4401	15
	村田 真（国際大学）
2009年のIS, DIS 段階の状況	16
2009年に開催された国際会議および我が国からの出席状況	17
国際規格開発賞の表彰	26
声のページ： 三つの賞	27
	仲林 清（放送大学）
国際会議の一員になるために	27
	中村 敏男（沖ソフトウェア(株)）
デファクト標準化とデジュール標準化	28
	田邊 正雄（日本電信電話(株)）
編集後記	28

＜標準活動トピックス＞

事業仕分けと標準化

経済産業省 情報電子標準化推進室
山中 豊

1. 事業仕分けの意味するところ

霞が関における 2009 年の流行語大賞を選ぶとすれば、筆頭候補は行政刷新会議の「事業仕分け」となるでしょうか。その実効性に対する評価は、もう少し後でないと判断できませんが、これまでの行政運営の方法に一石を投じたことは紛れもない事実です。

官庁組織のミッションの 1 つは、国という体制を維持し、安定的な運営を実現することです。それは必然的に、網羅的で継続性のある行政制度を目指すこととなり、保守的な傾向を生むことへと繋がります。これはある意味では健全な姿だといえますが、一方で、前例踏襲による硬直化などの弊害が起こったときに、いかに対処していくかが課題となります。このような観点からも、官庁の外からの違った視点にさらして、事業仕分けを行うことは、有効な手段の 1 つと考えられます。

2. 法令と標準の関係とは

行政制度は、法律、省令などの各種ルールブックに従って運営されています。行政だけでなく、企業の活動や私たちの日常生活も、それらのルールの上に存在しています。日本のルールブックの基本となる強制力のある法令は、現在約 7,400 件が施行されており、年々増加する傾向にあるようです。情報規格調査会がかかわっている標準も、広い意味ではルールブックの一端となるものといえます。標準化とは、ルールブックに新たな項目を書き加える行為となり、公的な機関で明文化され公開された手続きによって規格を作成するデジュール標準化はより制約の強いルール作りとなるわけです。

国内のデジュール標準の代表格は、JISC (Japanese Industrial Standards Committee ; 日本工業標準調査会) が承認して国務大臣が定める JIS 規格です。しかし、JIS 規格そのものは任意規格ですので、法令のような強制力はありません。市場がその標準を受け入れて形成された場合に、ビジネスとして必須規格になるわけです。一方、行政運営の立場から、法令の中で標準を引用する場合があります。市場で一般的に使われるようになった標準を行政制度にも取り入れる場合や、市場原理だけではうまく機能しない消費者保護の標準を定める場合などに利用されます。このように法令で引用された標準は、間接的ながら強制力を持つこととなります。

現在有効な法令約 7,400 件の中で、JIS 規格を引用した法令は約 360 件 (5%) もあります。技術標準とは直接関係のない、人文系のルールが大半を占める法令におけるこの割合は、かなり高い利用率といえます。また、JIS の情報分野 (X 分類) の規格発行数は約 600 件ですが、そのうちの 34 件 (6%) が法令から引用されています。内容としては、紙の書類に代わる電磁記録メディアとして光ディスクや磁気テープの規格を定めたものが多いようです。さらに法令の中には、数は少ないのですが、ISO 規格や IEC 規格を直接引用したのも 23 件あります。このようにデジュール標準は、単なる技術標準としてだけでなく、行政制度とのつながりも深いものとなっています。

3. デジュール標準の制定機関について

ところで、デジュール標準を定める機関は、欧米先進国が民間組織 (ANSI, BSI など) であるのに対し、日本は発展途上国に多くみられる国の機関となっています。このことから、他の先進国と同じように民間組織に移行すべきだとの議論がときどき聞かれます。経済の発展期においては、産業政策の一環として標準化を活用することで、市場の拡大や品質の確保などが図れますが、企業が自ら戦略を描いて活動する力がついた後は、過度の介入を避け、市場原理を基本とする民間活力に委ねるべきとの理解が、その主張の背景にはあるのでしょうか。

しかし、国の機関とするかしないかの違いは、経済発展過程だけでなく、ルールに対する欧米と日本の考え方の違いにも根ざしているように思えます。例えば米国では、裁判での判例を積み上げることで、法令の解釈や運用を補強していきます。これに対し、日本は細かいルールを定め、それを守るように運用する傾向が見られます。「お上」という言葉がまだ現役であるように、与えられたルールを絶対視する文化が底流に根付いているように思われます。標準化の世界でも、欧米はルールを変えることを考えるのに対し、日本はルール内での改善を考えると いわれます。このような状況は、「お上」に対する信頼でもあり、ある意味では依存といえるのかもしれませんが。

昨年行われた事業仕分けでの論点の 1 つが、スーパーコンピュータ開発の事例に代表されるように、どこまで国で直接実施すべき事業なのか、ということでした。仮に、わが国の標準化機関である JISC が事業

仕分けのまな板に乗ったとしたら、皆さんはどのように判断されるでしょうか？民間移行に舵を切るべきだと思われるでしょうか？

この命題に関係するキーワードの1つに、グローバル化というのがあります。先進国における主要産業の市場は、国内にとどまらず世界の市場が対象となります。各企業も、世界の市場をターゲットとして、製品戦略を、そして標準化戦略を考えることとなります。ところが、いくら経済が発展しても、行政制度の枠組みが国からはみだすことはありません。もちろん、WTO協定に見られるように、各国が連携してグローバルな制度運営をめざす動きもありますし、外交交渉によりお互いの国内制度を是正する場合があります。しかし、行政制度の対象はあくまでも国内だけですし、JIS規格も基本的に国内市場でのみ有効な標準です。

4. 新たな標準化の姿をもとめて

標準化機関の位置づけをどうするべきか、残念ながら私はまだ、理路整然と説明できる答えを持ち合わせていません。ただ、おぼろげながら、文化背景の異なる欧米と同じ仕組みを導入しても、うまくいかないのではと思っています。

欧米伝統の論理的思考では、2つの対立する概念を際立たせることで考察を深めていく傾向があります。それは、官に対する民であったり、公に対する私であったり、生産者に対する消費者であったりします。けれども現実の世界では、白黒はっきり色分けできるような事柄は、それほど多くはありません。標準の世界でも、公に定められるデジュール標準と、民間で作られるデファクト標準やフォーラム標準はまったく別物ではなく、互いに移行したり引用したりするなど、関係しあって発展してきています。また、安全規格やアクセシビリティ規格など、民間で練られたものに国がお墨付きを与えることで、より有効に機能するものもあります。これから重要となる、温暖化対策や省エネ分野の標準化は、民間での創意と政策的誘導とが連携しないと、うまく機能しないことも予想されます。

1つの方法論として、甲種 JIS、乙種 JIS というクラス分けをするのはいかがでしょうか (TypeA, B としたかったのですが、すでに A, B は JIS の分類として使われている記号なので、ちょっと古風な表現を試してみました)。甲種については、従来通りに JISC において制定をしますが、乙種は JISC が認定した民間機関で制定します。すでに、現在でも独自の規格書を発行している工業団体もありますが、それに国がある程度のお墨付きを与えるやり方です。通信系の ARIB 規格は、この位置づけに近い存在と考えられます。

JISC における標準化活動の課題の1つが、デジュール標準になる以前で、まだ全体のコンセンサスが得られていない時点での、コンソーシアムやフォーラム

における標準化に対する支援が難しいことです。民間機関であれば、活動の自由度が増えますので、フォーラム標準を乙種 JIS として取り込むことも可能です。また、ARIB 規格で既に実現しているような、英文規格の発行も出来ますので、国際規格への Fast Track 提案にも効率的に結びつけられます。

JISC 内では、ある程度分野共通的な制度運用が求められますが、分野ごとに異なる民間機関を指定すれば、その特性に合わせた運用、例えば技術進展の早い分野では、規格見直し期間を短くするなど柔軟に対応できます。もちろん、現在の JIS 形態で十分な分野は、JISC の策定する甲種 JIS のみで運用すればいいわけです。

JISC の機能としては、国内の JIS 制定だけではなく、ISO および IEC への登録メンバとしての国際標準化活動も含まれます。具体的な標準を作成する TC や SC では、情報規格調査会などの各種団体が主体となった活動となりますが、組織運営にかかわる上層の委員会では、JISC からの委員が活動を支えています。時には、国と国の交渉ごととなる場合もありますので、この部分では、国の機関である方が有益かと思われます。

5. おわりに

以上、少し荒唐無稽とも思えるアイデアを披露させてもらいました。これは、ともすれば現状追認に流れがちな自らの思考へのカンフル剤でもあります。問題意識を共有することで、皆さんと協力して、よりよい標準化活動へと進化する手助けが出来ればと思っています。なお、これらの記載内容は、私の個人的な意見であり、所属する組織の総意や見解ではないことをお断りしておきます。

＜最近の国際会議から＞

■ JTC 1 (Information Technology/情報技術) 総会 報告

技術委員会

委員長 石崎 俊 (慶應義塾大学)

1. 開催場所：テルアビブ (イスラエル)

2. 開催期間：2009-10-18/22

3. 参加国数/出席者数：25 カ国 (P メンバ 22 カ国,
0 メンバ 3 カ国) /94 名

議長 (Karen Higginbottom, 米), セクレタリ (Lisa Rajchel, 米), オーストリア (2), 加 (5), 中 (6), コートダジュール (1), デンマーク (1), フィンランド (1), 仏 (5), 独 (4), アイルランド (3), 日 (5: 石崎俊 [HoD], 大蒔和仁 [東洋大], 関口正裕 [富士通], 鈴木俊宏 [日本オラクル], 楠正憲 [マイクロソフト]), 韓 (9), ルクセンブルグ (1), 蘭 (1), ノルウェー (3), シンガポール (3), 南ア (2), スペイン (1), スウェーデン (1), スイス (1), 英 (3), 米 (8), 0 メンバ: スワジランド (1), イスラエル (1), ポルトガル (1), リエゾン: Ecma (2), ITU-T (1), IEC (1), ITTF (1), SC/WG: SC2 (小林龍生), SC6 (2), SC7, SC17, SC22 (2), SC23 (三橋慶喜), SC24, SC25 (2), SC27, SC28 (齋藤輝), SC29 (浅井光太郎), SC32, SC35, SC36, SC37, WG6, SWG-A, SGSN, SWG-ARM, SWG-Planning, WSSG

4. パテントデータベース

(1) ISO と IEC のパテントデータベースにおける情報の同期 (関連決議 1)

ISO と IEC のパテントデータベースに JTC 1 関連の情報を同期して供給することを推進する。その作業のための人的支援を歓迎する。いくつかの英国寄書に対して賛成の発言もあったが、否定的な声も複数あったので、決議では noted という表現となった。日本の寄書で指摘した、ITTF が報告の義務があるにもかかわらず報告を行っていないことについては、ITTF は日本の主張を認めたが、今回は用意していないので次回からは報告するという説明であった。

(2) パテントデータベースのアドバイザーグループの設置 (関連決議 2)

ISO と IEC のパテントデータベースについて ITTF に向けてガイダンスを作るアドバイザーグループを設置する。日本と英国、米国がまず参加して、英国がコンビーナを務める。その他の NB にも参加を呼びかける。また、このグループには ITTF のスタッフも参加する。英国の寄書 JTC1N9767 (distinguishing type of license in patent declarations recorded in ISO

and IEC databases) 及び日本の寄書 JTC1N9723 (JTC 1 Patent Database System) を参考にする。

(3) 欧州特許庁からの要請の件

NB や SC 議長の発言は欧州特許庁への特許文書の提供に否定的なものばかりであった。しかし ITTF や JTC 1 議長・セクレは、上層 (ISO/TMB, IEC/SMB) で、すでに欧州特許庁の要請に応える文書を提供する方向になっていることを強調した。議論の結果、本件に関する決議は行わないことになった。

5. 議長の再任

SC 28 齋藤議長 (JBMIA) の任期継続, SC 29 浅井議長 (三菱電機) の任期継続は問題なく承認された。SC 2 小林議長 (IPA) については今期でリタイアということで盛大な拍手があった。

6. 新しい SC/WG の設立、継続など

(1) SG Digital Content Management and Protection の継続 (関連決議 11)

スコープを long term digital preservation に限定することで 1 年間延長することになった。

(2) SG Energy Efficiency of Data Centers の設立 (関連決議 24)

データセンターのエネルギー効率に関し新しい Study Group の設立が決議された。この Study Group 設立の目的は、市場調査と今後の標準化活動を行うに際しての地ならしを行うことにある。米国がコンビーナとセクレを引き受ける。SWG on Planning 会議での日本からの要求事項に基づき、新 SC 38 の Study Group on Cloud Computing との連携を行なうこととした。

(3) スマートグリッド SWG の設立 (関連決議 25)

JTC 1 の各 SC にスマートグリッドの重要性を啓発すると共に他の標準化団体との協調を進め、JTC 1 としてこの領域にどのように取り組むべきかを検討する目的で設立した。IEC SMB Strategy Group 3 on Smart Grid の活動にも配慮する。米国からコンビーナとセクレを出す。

(4) JTC 1/WG 7 Sensor Networks 設立 (関連決議 34, 35)

センサーネットワークの SG は解散して JTC 1 直下の WG 7 とした。韓国から引き続いてコンビーナとセクレを出す。

(5) SC 38 の新設: DAPS: Distributed Applications Platforms and Services (関連決議 36)

Web Services Study Group (WSSG) からの提案と、SWG on Planning からの提案の内の Cloud Computing 関連を一つに纏める形で、新しい Sub-Committee 38 の設立が決議された。構成は以下の通り。

- ・ ウェブサービス WG コンビーナ: 米国

- ・ SOA(Service Oriented Architecture)WG コンビナー: 中国
- ・ クラウドコンピューティング SG コンビナー: 韓国, セクレタリ: 中国
- ・ SC 38 議長: 米国, SC 38 セクレタリ: 米国

Web Services については, 既存 SC の当該領域に対する活動の活発化と, それによる各 SC への参加者やリエゾンからのエキスパートの分散を避けるため, 新しい Sub-Committee で一貫した活動が期待される。

Cloud Computing に関するソフトウェアの基礎技術が Web Services や SOA と類似した側面を有していることから新 SC に含めることになった。

(6) SG Green ICT の設立 (関連決議 56)

“Green by ICT” に焦点を絞る, 他の標準化団体との連携を保ちながら Green 化による効率化が図られる産業分野を特定し, 今後 JTC 1 に出来ることを調査する。韓国からコンビナーとセクレタリを出す。

7. Directives 関連

(1) FDT: Formal Descriptive Techniques (関連決議 7)

現在では, 複雑な仕様記述を FDT で行うのは一般的であり, FDT に関するルールは役割を終えているので廃止する。今後は, FDT を利用しない規格と何等区別せず, 通常の手続きで規格開発すれば十分であるというコンセンサスとなった。

(2) ISP (関連決議 8)

ISP のルールの廃止は, プロファイルの標準化を否定するものではなく, 今後はプロファイルの性格に応じて通常の IS または TR として開発・出版すれば良いことになった。

8. その他

(1) JTC 1 総会向けの寄書の締め切り: JTC 1 セクレタリの Lisa への直接的な打診やレビューのドラフティンググループでの交渉で, Last Call Agenda の発行の 1 週間後が寄書の最終締め切りでは短すぎる旨を主張したが, 反対意見が多く受け入れられなかった。長い間の慣習で決まっている日程であり, 説得力のある理由がなければ難しいという印象を受けた。

(2) SC 31 の議長からの 3 年目の任期更新を求める寄書に対して, SC 31 議長が今回を含め 3 年間の任期中一回も JTC 1 総会に出席しなかったことを理由として承認せず, Acting Chair とした。

(3) IEEE PSDO Agreement with ISO (関連決議 43)

SC 28 からの要請で, 日本は, PSDO が SC 28 を PSDO Agreement に含めることに反対した。審議の結果, SC 28 が JTC 1 総会で提案したように, SC 28 だけでなくすべての SC を含めることで, PSDO Agreement を満たすことにした。

(4) Drafting Group には関口正裕氏が参加した。

9. 今後の開催予定 (関連決議 62)

2010-11-8/13 ベルファスト (英)

2011-10-30/11-05 または 11-07/12 (米)

■ JTC 1/WG 6 会議報告

JTC 1/WG 6 小委員会

主査 平野 芳行 (日本電気(株))

1. 開催場所: シンガポール

2. 開催期間: 2009-12-02/04

3. 参加国数/出席者数: 9 カ国/16 名

コンビナー (John Graham, 豪), セクレタリ (Andrew Mckey, 豪), 豪 (1), ベルギー (1), 独 (1), 韓 (1), ニュージーランド (1), スウェーデン (2), 英 (2), 南ア (1), シンガポール (3+1), 日 (1: 平野芳行), リエゾン: ISACA (Information Systems Audit and Control Association), itSMF (IT Service Management Forum) (1), SC27, (今回 SC7 からは不参加)

4. 特記事項

(1) JTC 1/WG 6 のタイトルの変更

WG 6 のタイトルについて “Corporate governance of IT” から, “Corporate” を削除する提案を JTC 1 の投票にかけることになった。理由は, 今後, Corporate だけでなく, NPO や公的組織なども含めることを想定すると除いた方がよいからである。

(2) ISO/IEC 38500 (Corporate governance of IT) の改正

SC 7 から移管された NP29151 の活動として, マイナー修正で改正を行うことが合意された。

ISO/IEC 38500 を基にした initial WD を作成し, WG 6 に非公式にコメント募集し, 2010 年 3 月の次回 WG でそのコメントを議論する。2010 年 3 月末までに WD を作成し, 同時に 2010 年 4 月に CD を登録・投票開始するスケジュールで進める。

(3) プロジェクトエディタの募集

WG 6 メンバに対し, 2009 年 12 月 7 日までに募集を開始し, 12 月 14 日に募集を締め切り, 12 月 18 日に決めて通知する。

(4) NP29184

SC 7 から移管を受けたガイド文書 NP29184 については, initial WD は既に配布されており, そのコメント期限を 2010 年 2 月 28 日とした。目標日程は, WD を 4 月末, CD を 9 月末とした。

(5) SC 27

SC 27 に対しては, リエゾン文書を WG 6 の主査又は Secretary が作成・送付することにした。また, WG

6 が公式に受け取った 2ndWD27014 に対して、WG 6 内で 2010 年 2 月 22 日までコメントを受け付ける。

2010 年 3 月の次回 WG で打ち合わせ、まとめた上で、SC 27 へ回答する。

(6) Business plan の作成

2009 年 12 月 31 日までにアンケートを作成し、2010 年 1 月 31 日までにその調査の準備し、配布、回収し、2010 年 3 月 31 日までに結果をまとめる。2010 年 9 月の WG 6 で Business plan の最終案を決定する。

(7) その他

2009 年 12 月 10 日 期限で投票中のモデルに関する NP については、エディタが 2010 年 1 月 31 日に WD を提出する。

また 12 月 15～31 日で Co-Editor を募集し、2010 年 1 月 31 日までに決定する。

(8) 今後の開催予定

2010-03-08/10 フィンランド (再調整中)

2010-09-13/15 韓国(TBD) or カナダ

5. 所感

今回、第 2 回目の会議で、SC 7 より審議案件を移管されたことにより、審議すべき項目が 3 項目になり、それらの今後の進め方やスケジュール調整を中心に行われた。今後 3 月の次回会議に向けてコメント等の募集が行われるので、次回から本来の議案の審議となる予定である。ただ、WG ということもあり、当日提出された新規内容について議論を始めることが多く、その点は、今後事前にアジェンダの掲載されたもののみ議論を行うなどの改善が望まれる。

■ JTC 1 SWG on Directives 会議報告

技術委員会

幹事 大蒔 和仁 (東洋大学)

1. 開催場所：テルアビブ (イスラエル)

2. 開催期間：2009-10-23

3. 参加国数/出席者数：9 カ国, 4 団体/27 名

議長 (Karen Higginbottom, 米), セクレタリ (Sally Seitz, 米), JTC1 セクレタリ (Lisa Rachel, 米), ITTF IEC CS (Gabriel Barta), ITTF ISO CS (Keith Brannon), 加(2), 仏(3), 独(2), 英(3), 米(4), デンマーク(1), 韓(1), 中(2), 日(3: 鈴木俊宏 [日本オラクル], 関口正宏 [富士通], 大蒔和仁), Ecma International (1)

4. 議事内容【要旨】

JTC 1 総会が行われた David Intercontinental ホテルの隣に建つ Dan Panorama ホテルの会議室で 1 日

だけ JTC 1 SWG on Directives の会議が開催された。前日夕刻まで JTC 1 総会が行われたので、JTC 1 SWG on Directives は当初の予定 1 日半より短くなった。今回の会議の目的は、前日までの JTC 1 総会の結論に基づいて、11 月 1 日から始まる JTC 1 レターバロットにかけるための、SWG on Directives としての JTC 1 Supplement の原稿を完成させることにあった。JTC 1 Standing Documents については原稿の検討は行われなかった。

JTC 1 SWG on Directives 会議では JTC 1 Supplement の内容を一行一行チェックをした。この作業によって、Introduction はとてもスッキリし、JTC 1 Supplement に対する日本のコメントは反映された。

同会議の「決議」であるところの Recommendation に記載されている、例えば、FDT を JTC 1 Supplement から外して Standing Document にするなどは、SWG on Directives の事務局で反映させて 11 月からの 90 日間投票に掛かる。

SWG on Directives 会議で、特に次の 2 点について、別途寄書を求めることとした。日本としても事例などがあれば寄書を作成する。

(1) 投票規則にあいまいな点がある。投票国の 50% なのか JTC 1 参加国の 50% なのか曖昧であるために、実際に問題となった事例があるか。

(2) JTC 1 の会議を開く際に健康や安全面で問題となった事例があるか。

5. 今後の予定

今後の予定は次のとおりである。

- 1 Nov 2009 - JTC 1 Ballots (90 日投票)
- 8/12 Feb 2010 - SWG-Directives JTC 1 BRM (Bellevue, Washington, USA)
- 24 Feb 2010 - JTC 1 Letter Ballots (60 日投票)
- 28 Apr 2010 - Submission of the JTC 1 Supplement to ISO TMB and IEC SMB
- 7 Jun 2010 - ISO/IEC JDMT Meeting
- 8/9 Jun 2010 - SWG-Directives Meeting (Geneva, Switzerland)
- 1 Jul 2010 - TMB and SMB on approval of JTC 1 Supplement.

6. 所見、感想

「accessibility」と「validation」や「verify」の違い、コンマの使い方、「shall」の使い方、など「規格英語」に精通している者も日本の Delegation に入っている必要性を感じた。エンジニアだけでは Directives のような文書には必ずしも対応が十分ではない。また英語の他に、仏語、露語も含むように書かれているが、奇妙に感じた。Directives の会議に出席するには、歴史的な背景の理解も必要なのかも知れない。

■ SC 2 (Coded Character Sets/符号化文字集合) 総会報告

SC 2 専門委員会 委員長 関口 正裕 (富士通(株))

1. 開催場所: 東京(日)

2. 開催期間: 2009-10-30

3. 参加国数/出席者数: 9カ国, 2団体/24名

議長(小林龍生[IPA]), セクレタリ(木村敏子[ITSCJ]), 加(2), 中(1), 独(代理), フィンランド(2), アイルランド(1), 日(8: 高田智和[国語研], 山本知[日立], 鈴木俊哉[広島大], 川幡太一[NTTコム], 山本太郎[アドビ], 織田哲治[IBM], 三上喜貴[長岡技科大], 関口正裕), 韓(2), 英(1), 米(5), UCB(リエゾン)(1), Unicode(リエゾン)(1), その他専門家等(4: 小形克宏[うさばら]を含む)

4. 概要

SC 2 は, SC 総会を 18 ヶ月ごとに, 傘下の WG 2 と OWG-SORT を概ね 6 ヶ月ごとに, それぞれ開催している. WG 2 と OWG-SORT は常に同時に同じ場所で, SC 総会も開催するときには WG 2/OWG-SORT と同時に開催している. (WG から見ると 3 回に 1 回総会が併催されることになる.)

- ・ 現在 SC 2 が担当する規格は, 実質的に 10646 と 14651 だけであり, 両者の改版と追補の開発が主要な活動である.
- ・ 今回の SC 2 総会は, 規格開発スケジュールが主要な話題で, 他は特に議論がない見込みだったが, セクレタリが報告・紹介した新 JTC 1 Directives の件で大きな議論になった. (後述)
- ・ なお, 現議長の小林氏が退任し後任の三上氏に交代する件は問題なく了承された.

WG 2 では, 10646 の Amd. 7 の FPDAM, Amd. 8 の PDAM, および 10646 自体のリバイズ版の CD の投票ディスポジションが主な話題であった. 中でも日本の関心事は, 以下の 3 点であった.

- ・ Amd. 8 に入る予定の「日本の携帯電話の絵文字」を UCS に追加する案の審議.
- ・ リバイズ版での「Unicode との整合性を高めるための変更」の内容の確認.
- ・ リバイズ版向けの漢字 (CJK 統合漢字) 部分のコード表の品質向上.

OWG-SORT は, 今回は特に大きな話題はなかった.

5. SC 2 総会

総会の決議は SC2N4112 (<http://www.itscj.ipsj.or.jp/sc2/open/02n4112.pdf>) にある. 内容は, 10646 および 14651 のリバイズ・追補に関する WG 案を追認

する決議 (3-5, 8-12) や, WG オフィサー, リエゾン, 2375 RA JAC などの指名 (決議 13, 15-18) に加え, 議長を退任する小林氏への謝辞と, 新議長の三上氏のエンドース (決議 1, 2) など.

他に, ISO DEVCO に対してレターを送るというものがある (決議 6) が, これは JTC 1 テルアビブ総会の決議 50 と関係があり, SC 2 の規格でのアフリカの文字・言語に対するサポートを強化するために専門家へのコンタクトの支援を求めるもの.

SC セクレタリが, 近く全面改正が予定されている新 Directives について説明した. これに関して, 特に投票プロセスでの FCD/FPDAM が DIS/DAM に置き換わることに伴う様々な変更に関して多数の発言があり, 場が騒然となった. 当初は反対の立場を主張する声ばかりであったが, SC レベルで議論する話題ではないことが理解されると, SC や WG で取れる対応案を考えるという流れになった. 本件は, まだまだ実際の SC/WG での活動者には周知されていなかった様子.

6. WG 2 (10646 を担当)

現在, 追補案 2 件と規格のリバイズを行っている. 今回のミーティングでは, 以下の 3 件の投票コメントに対するディスポジションを行った.

- ・ ISO/IEC 10646:2003/FPDAM 7
- ・ ISO/IEC 10646:2003/PDAM 8
- ・ CD 10646 (ISO/IEC 10646:2003 の改版)

このうち日本の主要な関心事について述べる.

6.1 携帯電話の絵文字関連

日本の携帯電話のメール等で使用できる絵文字を UCS に追加する提案があり, 前回までの WG 2 で審議の結果, PDAM8 の一部となっていた. これに関して多くの投票コメントが出され, また投票外でも寄書がいくつ提出され, 審議した.

関心を持つ日本のグループが外部の専門家として提出した寄書もあり, たまたま今回が東京開催だったこともあってそのグループの代表が招かれて議論に加わった. 結果として, 多数の細かい調整を行うことで概ね合意が形成されたが, 一部は決着がつかず次回審議になったものもある.

規格構成上の大きい変更として, 既存の携帯電話器が内部で利用しているシフト JIS ベースの独自拡張コードと UCS との対応情報を規格に明記することにした点がある. この対応情報に関しては, 国内の携帯電話キャリア各社も関心があるようで, 今後調整を行う必要があると考えている.

6.2 Unicode との整合性

Unicode Consortium が作る業界標準 The Unicode Standard と, ISO/IEC 10646 UCS とは, 同一の文字コードを規定する二つの標準という状態を 15 年以上続けている. Unicode Consortium は SC 2 の C リエゾン

であり、基本的には関係も良好で、両者の規格改版のタイミングが若干ずれることを除いては同一の文字コードを共同で保守する状態が続いている。

両者は、文字コードとしては同一であるが、用語や説明（モデル）には差があり、またコード表そのものも従来は異なる体裁のものをそれぞれ作っていたため、一見すると異なる印象を与えることもあった。そこで数年前から The Unicode Standard と ISO/IEC 10646 の書きぶりを近づける努力を続けてきたが、現在作業中の 10646 の次版で、コード表と（英語の）用語を完全に一致させる予定になっている。この影響で、規格テキストでの用語の置き換えが多数起きるが、現在のドラフトにはいろいろと問題があり、多数指摘した。大半は日本の指摘通りに受け入れられたが、他国からこの種のコメントが出ないのが奇妙。コード表についてもいくつか指摘しているが、プロジェクトエディタのコード表作成作業上対応が難しいという類のものもあり、あきらめざるを得ないものもある様子。

6.3 漢字部分のコード表

上記に関連して、漢字部分のコード表の形式を大幅に変更しようとしているが、作業上の問題として、従来は WG 2 傘下の IRG (Ideographic Rapporteur Group) が漢字部分のコード表の PDF を用意し、プロジェクトエディタは規格原稿に組み込むだけであったものを、諸般の事情でプロジェクトエディタが自身でコード表原稿を作成する方法に変更しているが、この作業に誤りが大量に発生している。大半は単純な作業ミスだが、プロジェクトエディタが漢字を解さないこともあってか、ドラフトが各国に回付されるまでミスが発覚しない状況になっている。これに加え、今回の改版用に各国が提供した漢字フォントの品質が低いものも含まれていたことから、漢字部分のコード表の品質が全体に低いものになってしまっている。

日本から品質の低さについて問題提起を行い、危機感共有されたと思うが、スケジュールを遅らせても品質を確保すべきという日本の主張は合意に至らなかった。代案として、投票を意識したドラフト作成サイクルと若干切り離れた形で IRG として漢字部分のコード表をレビューするという進め方が合意された。この方法がうまく機能するかどうかはわからず、今後十分に注意が必要。

7. OWG-SORT (14651 を担当)

今回は特に大きな議論はなく、半ば機械的な処理だけであった。10646 に文字の追加が行われているので、例によって、これを追加するための追補の作成などを合意した。

8. 今後の開催予定

2011-04 フィンランド

■ SC 17 (Cards and Personal Identification / カード及び個人識別) 総会報告

SC 17 国内委員会
委員長 廣川 勝久

1. 開催場所：北京（中）

2. 開催期間：2009-09-23/25

3. 参加国数 / 出席者数：14 カ国, 2 リエゾン / 35 名

議長 (Richard Mabbott, 英), セクレタリ (Chris Starr, 英), 豪, 中, 仏, 独, 日 (8: 廣川勝久 [SC 17/ECSEC], 谷内田益義 [東工大/リコー], 中澤明 [日本電産サンキョー], 寄本義一 [凸版印刷], 井出野敦弘 [全銀協], 荻部浩 [JBMIA], 坂本静生 [NEC], 江村智之 [JBMIA]), ケニア, 韓, 蘭, ニュージーランド, シンガポール, 南ア, スウェーデン, 英, 米

リエゾン: ICMA (International Card Manufacturers Association), UATP (Universal Air Travel Plan)

4. 議事概要

4.1 開会及び議事日程の承認

SC 17 議長 Mabbott 氏の開会宣言に続いて、ホスト国を代表して中国 CESI (China Electronics Standardization Institute) から歓迎の挨拶と会議運営方法の説明があった。

出席国及びリエゾンの確認・出席者の紹介に続いて、事前配布の議事日程案についてナショナルレポート 4 件、総会の直前に開催された各 WG の議長レポートを追加のうで承認した。

4.2 総会決議案起草委員の選任

本総会における決議案起草委員会をセクレタリ Chris Starr 氏 (英) と Michael Hegenbarth 氏 (独), Uwe Trueggelmann 氏 (英), Brian Beech 氏 (米), 廣川勝久 (日) の計 5 名で構成することを決定した。

4.3 各国ナショナルレポートの紹介

SC 17 議長からコントレビューションへのお礼の言葉とともに英・米・日・スウェーデン・韓・シンガポール・仏から文書によるナショナルレポートの提出があったことが紹介された。また、独から口頭報告があった。

4.4 リエゾンレポート

今回、外部リエゾンから事前に提出されたレポートはなかった。

内部リエゾンに関しては口頭報告が行なわれた。

- ・ ISO/TC 68/SC 7, Core Banking に関しては、国境を越えたトランザクション・メッセージについて XML 化の検討が行なわれているとの報告があった。
- ・ JTC 1/SC 31, Automatic identification and data

capture techniques に関しては、RFID Emblem の標準案における SC 17 ドキュメントの参照について現状を確認した。また、両 SC の標準化対象範囲に関する「SC 31 はオブジェクトの識別・SC 17 は人の識別」とする 10 年前の合意について SC 31 との間でレビューが必要との認識が示された。

- ・ 非接触 IC カード、NFC、RFID 関連の標準については SC 17、SC 6、SC 31 の連携が必要であることが再度認識された。

次の各リエゾンオフィサが選任された(含、再任)。

- ・ ISO/TC 68, Financial Services: Chris Starr 氏 (セクレタリ)
- ・ ISO/TC 68/SC 7, Core Banking: Chris Starr 氏 (セクレタリ)
- ・ ISO/TC 215, Healthcare Informatics: (前任者の退任に伴いシンガポールから候補者を推薦の予定)
- ・ JTC 1/SC 6, Telecommunications and information exchange between systems: Michael Hegenbarth 氏 (独)
- ・ JTC 1/SC 27, IT Security techniques: (前任者の退任に伴いリエゾン候補者の推薦を要請)
- ・ JTC 1/SC 31, Automatic identification and data capture techniques: Michael Hegenbarth 氏 (独)
- ・ JTC 1/SC 37, Biometrics: Lin Yih 氏 (シンガポール)

なお、以下についてもリエゾン関係の検討を行なうこととした。

- ・ ISO/TC 274, Fraud Countermeasures and Controls については、米国から ID カードに関連する部分についてのレポートを作成する旨の提案があり了承されたが、各国の見解を別途確認することとした。
- ・ JTC 1 SWG on Accessibility については、リエゾン関係の要否に関する各国の見解を別途確認することとした(関連する SC 17 規格として日本提案の ISO/IEC 7811-9 TIM, ISO/IEC 12905 ETA 等がある)。

4.5 JTC 1 及び ISO 関連事項

JTC 1 奈良総会 (2008-11-10/15) の Resolutions を確認するとともに以下を決定した。

- ・ Resolution 10 -- Maintenance Team for IT Vocabulary: WG 議長及びプロジェクトエディタが対象用語を抽出のうえ SC 17 セクレタリを通じて対応する。
- ・ Resolution 42 -- Harmonisation of ISO/IEC 14443 standard with standards on Near Field Communications (NFC): SC 17 としての対応は WG 8 が継続する。

- ・ Resolution 43 -- Proposal for a new field of technical activity on Fraud countermeasures and controls (ISO/TS/P 206/JTC 1 N9415): ISO/TC 274 へのリエゾンにつき各国の見解を確認する。
- ・ Resolution 44 -- Re-establishment of Study Group on Sensor Networks: 関係事項の有無を別途確認する。

4.6 各 WG 報告及び関連審議

各 WG 議長から前回の SC 17 総会 (2008 年 10 月) 以降の活動状況が報告された。

また、SC 17 議長から各 WG に対して個別作業項目の期日管理及び必要なアクションについてのフォローが行なわれた。

実際の報告は時間配分の関係から WG 1, WG 4, WG 5, WG 8, WG 3, WG 9, WG 10, WG 11 の順に行なわれたがここでは WG 番号順に報告する。

なお、WG 7 (金融取引カード) は次回定期見直しまで活動休止 (stood down) 中のため今回の議題には含まれていない。

4.6.1 WG 1: ID カードの物理的特性及び試験方法

WG 1 議長 Uwe Trueggelmann 氏 (英) が報告した。ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ) のパート 1 及び 2 の審議が進み 2 回目の CD 投票に進む予定であるが、プロジェクトが予定よりも遅れているため両パートについて期限を 1 年延長することとした。

なお、ISO/IEC 24789 シリーズに関して CEN/TC 224 とのリエゾン関係を確立した。

ISO/IEC 7811-7 (高保磁力・高密度磁気カード) は利用されていないため廃止の検討を行なうこととした。

ID-1 (国際クレジットカード等で使用されている形状) 以外の形状のカード等が出てきているため、ID-1 準拠に基づく国際互換性のメリットを再度明示するための資料を作成することとした。

4.6.2 WG 3: 機械可読渡航文書

WG 3 議長 (加) の代理で Tom Kinneging 氏 (蘭) が報告した。

ICAO (International Civil Aviation Organization) との連携及び非接触インタフェースに関する SC 17/WG 8 との連携を継続している。

ICAO で IC 旅券等に関する試験方法の検討が進んでいることに対応して、IC 旅券等の耐久性試験とアプリケーションプロトコル及び論理データ構造試験に関する NP 提案の準備を行なうこととした。

4.6.3 WG 4: 外部端子付き IC カード (含、外部端子付き/なし IC カードの共通機能)

WG 4 議長 (仏) の代理で寄本義一氏 (日) が報告した。

ISO/IEC 10373-3 (IC カードの試験方法) は FCD 投票後の改訂作業が進行中であるが、プロジェクトの期日が迫っているため期限を 1 年延長することとした。

ISO/IEC 7816 (IC カード[含, 外部端子付き/なし IC カードの共通機能]) シリーズの改訂, ISO/IEC 24727 (IC カードプログラミングインタフェース) シリーズの審議を継続している。

4.6.4 WG 5: 発行者識別番号と登録管理 (含, アプリケーション提供者識別情報)

WG 5 議長 Patrick Macy 氏 (米) が報告した。

ISO/IEC 7812 (発行者識別番号とその登録管理) シリーズの改定を開始することとした。

SC 17 の各規格に定められた, 発行者識別番号, アプリケーション提供者識別情報, IC 製造者識別番号等についてその登録・管理を WG 5 に集約すべきかどうかを検討した結果, 現状どおり WG 5 と WG 4 で分担することとした。

4.6.5 WG 8: 外部端子なし IC カード (非接触 IC カード)

WG 8 議長 Michael Hegenbarth 氏 (独) が報告した。

ISO/IEC 14443 (外部端子なし IC カード[非接触 IC カード]・近接型) シリーズで, 同一フィールド内に複数のカードが存在する場合 (Multiple PICC in a single operating field) についての要望が出てきているため, ISO/IEC 14443 シリーズへの追補の NP 提案を準備することとした。

JTC 1/SC 6 と連携して ISO/IEC 14443 シリーズと NFC との Harmonization を進めているが, 会議が重ねられ良い方向に進みつつある (日本の寄書が貢献) との報告があった。なお, NFC 側の対応する改訂が SC 6 で行なわれるのか Ecma International で行なわれるのかは現時点では明確になっていないとの報告があった。

RF インタフェースを利用する SC 17, SC 31, SC 6 の担当国際標準には重なる領域があり, これらの国際標準を正しく利用してもらうための TR 等の必要性について日本から問題提起を行なった結果, SC 17 議長が関係 SC と可能性について検討することとなった。

4.6.6 WG 9: 光メモリカード

WG 9 議長 Ron Field 氏 (英) が報告した。

ISO/IEC 11695 (光メモリカード・ホログラフィック記録方式) シリーズの標準化進展に伴い, ISO/IEC 10373-9 (光メモリカード・ホログラフィック記録方式の試験方法) について NP/CD 提案の準備を行なうこととした。

4.6.7 WG 10: 自動車運転免許証と関係書類

WG 10 議長 Loffie Jordaan 氏 (米) が報告した。

ISO/IEC 18013 (ISO 準拠運転免許証) のパート 1 で用いる車輛カテゴリに関して, UN コードと EU コードとの間に不整合があり調整中であることが報告された。

ISO/IEC 18013 のパート 3 のセキュリティ機能を拡張するための One Line MRZ (Machine Readable Zone) に

ついて追補の NP/CD 提案の準備を行なうこととした。

4.6.8 WG 11: バイオメトリックス応用

WG 11 議長 Lin Yih 氏 (シンガポール) が報告した。

ISO/IEC 24787 (On Card Biometric Comparison) は CD 段階の検討が継続されており, プロジェクトの期限を 1 年延長することとした。

4.7 SC 17 のビジネスプラン等の確認

事前配布された SC 17 のビジネスプランについて現在のタイトル及びスコープを再確認するとともに, 個別作業項目に関する編集上の修正を行なうことを前提に合意した。

4.8 今後の総会開催予定

2010-10-06/08 高松 (日)

JBMIA 江村智之氏が開催地及び利用施設の概要を紹介するとともに, 各 WG の開催予定を 6 カ月前までに確定するよう要請した。

2011-10 韓国 (開催地検討中)

2012-10 米国 (開催地検討中)

5. 総会決議案の承認

P Member 14 カ国他の出席のもとで, 起草委員会作成の総会決議案を審議し一部を修正のうえ全会一致で 11 件の決議案を承認した。

なお, 今回はプロジェクトマネジメント関係の決議が中心となった。

6. 閉会

SC 17 議長がホストである SAC (Standardization Administration of the Peoples Republic of China), オーガナイザである CESI 及び CUP (China Union Pay) とスポンサ企業への謝辞を述べ, 閉会を宣言し今回の総会を終了した。

■ SC 34 (Document Description and Processing Languages/文書の記述と処理の言語) 総会報告

SC 34 専門委員会

委員長 小町 祐史 (大阪工業大学)

1. 開催場所: ベルビュー (米)

2. 開催期間: 2009-09-17

3. 参加国数/出席者数: 15 カ国/40 名

議長 (S. Oh, 韓), セクレタリ (木村敏子, 日), ブラジル(2), 加(2), 中(5), デンマーク(2), フィンランド(2), 仏(1), 独(1), 印(2), 伊(1), 日(3: 小町祐史[大阪工大], 村田真[国際大学], 石坂直樹[マイクロソフト]), 韓(2), ノルウェー(2), 南ア(2), 英(4), 米(4), Ecma(2), OASIS(1)

4. 特記事項

4.1 プレナリでの決定事項

次に示す内容を審議し、決定(SC34N1290)した。それに関連するその他の議論の概要を 4.2 示す。

(1) WG 6(ODF, 開放形文書フォーマット)の設立

次に示す WG 6 を設立し、エキスパートの募集と会議開催通知を SC 34 メンバとリエゾン組織に発行することをセクレタリアートに指示する。

標題: 開放形文書フォーマット

活動内容: ISO/IEC 26300 開放形文書フォーマットのメンテナンスに係るすべての SC 34 プロジェクトと活動。ISO/IEC 26300 のメンテナンスおよび ISO/IEC 26300 にもつぱら関連する他の作業における OASIS ODF TC との共同作業。その共同作業は、OASIS と JTC 1 とによって合意されたメンテナンスの原則と手続き(N1148 および N1149)とに従う。これは、WG 1 とアドホックグループ 3 によって以前に実行された、ISO/IEC 26300 に関連するすべてのプロジェクトと活動とを含む。

(2) WG 6 コンビナーの指名

Francis Cave(英)を WG 6 臨時コンビナーとして指名する。

(3) ISO/IEC 26300:2006 と ODF v1.1 との連携

OASIS に対して、ODF v1.1 と連携するためのプロジェクトの細分割を可能にするのに必要なすべての寄与を SC 34 に送付することを求める。

(4) ISO/IEC 26300 の翻訳

SC 34 は、ISO/IEC 26300 の英語以外の言語への翻訳が、英語版の重要な改善案を引き出すことを認める。この事例における多くの日本の寄与に関して、特に日本に感謝したい。SC 34 議長は、本件を日本に通知しなければならない(決定文書にこのような表現が盛り込まれたことは、JIS 化に伴う厳密な翻訳作業の ISO への寄与が認められたと考えてよいであろう)。

(5) ISO/IEC 19757-5(文書スキーマ定義言語 DSDL パート 5 拡張可能なデータ型)のプロジェクトの進捗

このプロジェクトを FDIS に進める。プロジェクトエディタに対して、FDIS 処理のための改訂テキストを用意することを指示する。

(6) ISO/IEC 19757-3(文書スキーマ定義言語 DSDL パート 3 規則に基づく妥当性検証 - Schematron)

改訂のためのプロジェクト細分割 N1287 に従い、ISO/IEC 19757-3 の改訂のためにプロジェクトの細分割を行う。プロジェクトエディタがテキストを提出したら、3 ヶ月の CD 投票を開始することをセクレタリアートに指示する。

(7) ISO/IEC TR 9573-11 に関する ITSIG へのリエゾンステートメント

ISO/ITSIG が開発する XML template と Amd. 1/ISO/IEC TR 9573-11 との協調を求める ITSIG

へのリエゾンステートメントを承認し、それを ITSIG に送付することをセクレタリアートに指示する。

(8) ISO/IEC 19757-11 に関する W3C へのリエゾンステートメント

W3C と SC 34/WG 1 とが 19757-11 (Schema Association) を作成することに協力し、その作業成果を期待している旨のリエゾンステートメントを承認し、それを W3C に送付することをセクレタリアートに指示する。

(9) ISO/IEC 19757-2 に関する W3C へのリエゾンステートメント

“19757-2 を使用する XForms 1.1 スキーマを W3C が SC 34/WG 1 に送付してコメントを求めていることを知り、WG 1 が 2009 年 11 月 30 日の WG 1 パリ会議の後でコメントを W3C に送付することを了解する。SC 34 は、RELAX NG を含む DSDL で書かれたスキーマを喜んでレビューする。”というリエゾンステートメントを承認し、それを W3C に送付することをセクレタリアートに指示する。

(10) ISO/IEC 24754(文書レンダリングシステムを指定する最小要件)

ISO/IEC 24754 の規定内容に従って、文書レンダリングシステムに対してどのようにフォーマット指定を行うかの指針を規定する必要があるとの要求(N1283)に従い、ISO/IEC 24754-2 のためにプロジェクトの細分割を行う。プロジェクトエディタがテキストを提出したら、3 ヶ月の CD 投票を開始することをセクレタリアートに指示する。

(11) ISO/IEC 13250-1(トピックマップ パート 1 概要および基本概念)のプロジェクトのステータス

ISO/IEC 13250-1 のステータスを TR Type3 に変更することを承認する。それは、その文書内容が規定でないことによる。プロジェクトエディタがテキストを提出したら、3 ヶ月の PDTR 投票を開始することをセクレタリアートに指示する。

(12) トピックマップ - 意味記述の配信用プロトコルの新作業課題

トピックマップ - 意味記述の配信用プロトコルの新作業課題を承認する。WG 3 が NP を提出したら、3 ヶ月の投票のためにそれを SC 34 メンバに配布することをセクレタリアートに指示する。

(13) ECMA-376:2006 と ISO/IEC 29500:2008 との技術的差異に関する NP のステータス

ISO/IEC 29500-1/4:2008 に対する Amds (ECMA-376:2006 と ISO/IEC 29500:2008 との技術的差異)に関する NP(SC34 N1202)が十分な承認を得たことを認める。一つの Amd. が規格への追加と変更を含み、新作業課題の最終生成物が完全に規定でないことを認めて、N1234 に示す各国コメントへの対処に基づき、この作業課題を TR Type3 の開発として SC 34 の作業計画に加えることにする。

フランスおよび韓国がプロジェクトエディタを提供することを取消したことを認め、この作業に対して寄書の提出がなかったことを認める。SC 34 は、今回の SC 34 会議までに、TR Type3 の作業を開始できるように、各国に対してプロジェクトエディタの提供および寄書の提出を求める。

(14) 期限の延長

次に示すと通りの ISO データベースの期限延長の承認を JTC 1 に要求する。

WG	Project No.	現在の期限	新しい期限	理由
3	13250-5	FDIS:2009-8 IS: 2009-10	FDIS:2010-12 IS:2011-06	合意確認のためもう 1 回 FCD 投票が必要。

(15) 開発目標日程の承認

次に示す開発目標日程を承認/確認する。

WG	Project No.	CD PDAM PDTR	FCD FPDAM	FDIS FDAM DTR
1	TR9573-11/Amd. 1	-	-	2010-09
1	19757-1 (TR)	2011-12	N/A	2012-12
1	19757-2/Amd. 2	2010-03	2010-09	2011-01
1	19757-2/Amd. 4	2010-03	2010-09	2012-02
1	19757-3	2009-10	2011-06	2012-03
1	19757-5	-	-	2009-12
1	19757-11	2010-04	2011-04	2012-04
2	9541-1	2010-03	2010-09	2011-03
2	9541-2	2010-03	2010-09	2011-03
2	9541-3	2010-03	2010-09	2011-03
2	9541-4/Amd. 1	2010-03	2010-09	2011-03
2	24754-2	2010-03	2010-09	2011-03
3	13250-1 (TR)	2009-12	N/A	2010-06
3	13250-5	-	2010-03 (2ndFCD)	2010-12
3	13250-6	-	-	2009-12
3	13250-7	2010-10	2011-10	2012-03
3	18048	-	2010-06	2011-06
3	19756	-	2010-03 (2ndFCD)	2010-09
3	TR29111	2010-03	N/A	2011-03
4	29500-1/Amd. 1	-	-	2010-01
4	29500-2/Amd. 1	-	2010-06	2011-01

(16) プロジェクトエディタの指名

次のプロジェクトエディタを指名する。

19757-1: Alex BROWN (村田真の後任), 24754-2: Ken HOLMAN, 18048: Rani PINCHUK (co-editor)

(17) リエゾン委員の指名

次のリエゾン委員を指名/確認する。

内部: IEC/TC 100/TA 10 (小町祐史), ISO/TC 46 (Sam Gyun OH), JTC 1/SC 22 (Rex JAESCHKE), JTC 1/SC 29 (小町祐史), JTC 1/IT Vocabulary MT (Patrick DURUSAU), ISO/IEC RA 10036 (上村圭介)

外部: Ecma (村田真および Rex JAESCHKE (TC 45)), OASIS (Patrick DURUSAU (ODF TC) および Doug MAHUGH (OIC TC)), XML Guild (G. Ken HOLMAN), W3C (Mohamed ZERGAOU)

4.2 その他の議論

(1) ISO/IEC 29500 に関する DCor および FPDAM

ISO/IEC 29500 の全パートに関する DCor. を開発し、29500 のパート 1 およびパート 4 に関して FPDAM を作成した。それらはメンバ国およびリエゾンからの DR (欠陥報告) に応えて、開発された。

(2) ISO/IEC 9541 の第 2 版

ISO/IEC 9541 (フォント情報交換) の第 2 版に関する次の編集方針を承認した。

- すべての Amd. と Cor. とを反映する。
- 形式記述には、ISO/IEC 19757-2 を使う。

5. 今後の開催予定 (開催年月日, 開催国及び都市名)

2010-03-22/26 ストックホルム (スウェーデン)
2010-09-20/24 または 09-27/10-01 (南アフリカ)

■ SC 36 (Information Technology for Learning, Education and Training / 学習, 教育, 研修のための情報技術) 総会報告

SC 36 専門委員会

委員長 仲林 清 (放送大学)

1. 開催場所: ウメア (スウェーデン)

2. 開催期間: 2009-09-21/25

3. 参加国数 / 出席者数: 13 カ国, 4 団体 / 53 人

議長 (Bruce Peoples, 米), セクレタリ (Channy Lee, 韓), 豪 (2), 加 (7), 中 (7), フィンランド (2), 仏 (3), 独 (2), 日 (5: 仲林清 [放送大学, HoD], 岡本敏雄 [電通大, WG2 コンビーナ], 西田知博 [大阪学院大], 平田謙次 [東洋大], 鷹岡亮 [山口大]), 韓 (10), ノルウェー (2), ポルトガル (1), 露 (6), スウェーデン (1), 英 (3)

リエゾン (人数の無い団体は NB 代表が兼務): AUF (1), CEN/ISSS, DCMI, IMS (1)

4. 議事内容

SC 36 総会および WG が前回 2009 年 3 月のウェリントン会議に続いて開催された。主な審議内容を以下に示す。

4.1. 総会

総会での主要な審議議事項は以下の通りである。

(1) ISO TC232 との関係

ISO TC232 Learning services for non-formal education and training が 2006 年に設立された。SC 36 と分野が近いと、両委員会に参加しているフランスの HoD がリエゾンを務めていたが、TC232 側から情報が得られない状態が続いていた。最近になって TC232 のスコープの見直しが行われ、これまで含まれていた “The TC shall not create standards in the field of information technologies for learning, education, and training.” という文言が削除され、SC 36 のスコープとの重複が懸念されている。また、TC232 が作業中の ISO/DIS 29990 も教育の質保証に関

するもので、すでに SC 36 から IS 化された ISO/IEC 19796-1 ITLET -- Quality Management, Assurance, and Metrics との内容の重複が指摘されている。ドイツ、日本ではローカルに SC 36 側から働きかけているものの、十分なコンタクトができない状態が続いており、このため、上記 ISO/DIS 29990 に関して SC 36 NBLO からのコメントを集めるとともに、ISO/IEC 19796 を中心になって推進してきたドイツを TC232 へのリエゾンに加えることとした。また、各国にローカルの TC232 委員会とのコンタクトを要請した。

(2) JTC 1 Training Coordination Ad Hoc

前回のウェリントン会議で設立された表記の Ad Hoc グループを継続することになった。ISO、IEC の各 NB の有するトレーニングコースの情報収集、eラーニング化に当たってのシステム要件の条件を特定する。

(3) IMS と ADL の関係

アメリカの高等教育機関を中心とする標準化団体 IMS と、同じくアメリカの DoD 配下の標準化推進組織 ADL が共同でリエゾンレポートを提出した。両団体は、eラーニングコンテンツの標準規格 SCORM に関して協力関係にあったが、ここ数年 IMS の著作権の扱いに関する方針の変化などに端を発して関係が悪化し、それが SC 36 にも持ち込まれていた。今回のリエゾンレポートは両団体が再度協調関係を構築することを表明したもので、各国から好意を持って受け入れられた。

4.2 WG 1 (ボキャブラリ)

コンビーナ不在の状況が続いていた WG 1 であるが、Mokhtar Ben Henda 氏 (仏) がコンビーナに就くことになり、総会で承認された。WG 1 ではボキャブラリ規格である、ISO/IEC 2382-36 の第 2 版の作成を進めているが、その方法についての議論が行われた。

その結果、用語を集めるためのテンプレートを用意すること、第 2 版に反映させるべき用語を定義している IS および FDIS、DTR を特定する作業を進めること、次回大阪会議で議論を行うためのコンセプトマップを作成することが決まった。コンセプトマップの作成のツールとしては、これまでの会議で紹介されてきた Cmap を使い、そのサーバは韓国が提供することとなった。

4.3 WG 2 (協調・インテリジェント技術)

(1) ISO/IEC 19778, 19780

IS となった Collaborative workplace (19778-1, 2, 3) および Collaborative learning communication (19780-1) について、その普及を図るためのユーザガイドの作成についての議論が行われた。これは Type3 TR としての出版を目指し、NP 投票が行われていたが、参加を表明した国が不足していたため新しいプロジェクトの作成が認められなかった。このため、今回の会議ではその対応について協議した。ユーザガイド作成についてはプロジェクトエディタになることが予定されている山口大学の鷹岡氏および日本ユニシス

の原氏が事前に議論を行い、準備を進めていたため、鷹岡氏からその方針の説明が行われた。これを受けた議論の中で、ユーザガイドを 19778 の新パートとし、その中で 19780 との関連を示すことで作成を進めてはどうかという提案がなされた。

その後の議論の結果、19778 の新しいパート (Part4) としてユーザガイドを作成することが合意され、総会でも承認された。内容は、19780-1, 2, 3 だけではなく、19780-1 の関連も含めたユーザガイドとなる予定である。プロジェクトエディタとしては、日本から鷹岡亮氏、原 潔氏、ドイツから Joachim Niemeier 氏、Herbert Muller Philipps Sohn 氏が就くことになり、総会で承認された。

(2) ISO/IEC 29127

PDTR 投票の BRM が前回のウェリントン会議で完了し、DTR 投票が開始される予定であったが、その作業が遅れていた。プロジェクトエディタ Bruce Peoples 氏から、現在、カナダから申し出のある Annex への追加文書の提出を待っている状況であり、この追加が終了次第、DTR 投票を開始する予定であるとの報告があった。

(3) スタディピリオド “The Integration of Automated Processes for Supporting Collaborative Activities”

Study period の報告の一環として、SC 36 議長、ドイツ、中国、WG 2 コンビーナのプレゼンテーションが行われた。その後の議論の結果、collaborative workplaces and environments に関するユースケースの提供を、2010 年 1 月 15 日を期限として各国に求めることとなった。また、この Study period はさらに 6 ヶ月間延長することとなった。

(4) 今後の展望

WG 2 では 4 つの IS の普及のためのユーザガイドの作成を開始することとなった。今後は、この作業を進めていくことと、Study period の議論を踏まえた新しい標準化作業を進めていく予定である。Type3 TR “System Process and Architecture for Multilingual Semantic Reverse Query Expansion for LET” (29127) については、Annex の追加作業が終了次第、DTR 投票を行い、TR としての出版を目指す。

4.4 WG 3 (学習者情報)

(1) スタディピリオド Managing and Exchanging Participant Information (MEPI)

学習者のスキル・コンピテンシーの管理に関する検討を進めている。Competency semantic information と e-portfolio の 2 つのカテゴリ議論が行われ、いずれも NP を作成することとなった。前者は、日本 (平田) が NP 案を作成し今回検討が行われた。これを受けて、日本から NP 投票を提案する。後者は、韓国が投票を提案する。

(2) ISO/IEC 24703:2004 Participant Identifiers

2004年に制定された当該規格に関して見直しの議論が行われ、各国の利用状況などを勘案して適切な修正などを行うこととなった。

(3) NWI ISO/IEC TR 29140: Nomadicity and Mobile Technologies

モバイルラーニングに関する2つのパートからなるTRを作成するプロジェクトである。Part2は次回までにDTR案を作成することとなった。また、Part1はPDTR投票の準備を進める。

(4) TR 24763 CRM Competencies and related object

当該規格に関してDTR投票に進めることで合意した。

4.5 WG 4 (MDLET, Management and Delivery for LET)

WG4はMLR (Metadata for Learning Resources), CP (Content Packaging)の標準化を行っている。今回は、議題が非常に多く、2009年9月22日のほか、2009年9月15~18日の合計5日間に渡って行われた。このうち報告者が参加した2009年9月22日には、MLR Part 5: Educational Elements, MLR BindingsおよびContent Packaging -- Part2, 3の議論が行われた。今回の会議で、MLRについては、Part1と2をFCD段階に進めることが合意され、他のPartも順次CD投票を進めることとなった。またCPについてはPart1がFDIS投票中であり、Part2, 3については今後CD投票を行う予定である。

4.6 WG 5 (Quality Assurance)

(1) DTR 19796-5 Guide of How to use 19796-1

DTR投票の準備を進めることで合意した。

(2) e テスティング

現在、スタディピリオドを進めており、各国にe テスティングの経験、レポートを求める。

(3) 品質保証関連スタディピリオド

各国におけるeラーニング分野でのISO 9000その他の品質保証関連規格の適用事例のレポートを求める。

(4) ISO/DIS 29990 (ISO/TC 232)に関するコメント

ISO/TC232で進められている教育品質に関するISO/DIS 29990へのコメントを各国に求める。

4.7 Ad-Hoc on JTC1 Training Coordination

このAd-hoc会議はISO/IEC JTC1の要求に対応し、国際標準作成に関わる人材育成のための教材提供についての議論を行うためのものである。経済産業省の齊藤氏が昨年のJTC1奈良会議で報告した日本における研修体制のプレゼンテーション資料が紹介された。議論の結果、各国の参加者が自国あるいは周辺国に存在する国際標準作成に関するトレーニングのためのeラーニング素材を調査し、報告することになった。また、このAd-hoc Groupに関する情報交換はノルウェーのTore Hoel氏が提供するWikiによって行うこととなった。

5. その他

5.1 日本提案の進展

WG2で長らく進めてきた協調学習関係の4つの規格については、ユースケースドキュメント作成のNWIを提案することになった。引き続き日本が中心となって作業を進めていく必要がある。また、WG3, WG5ではスキル標準関係、品質保証関係の活動で日本が中心になって進めており、WG3ではNPを提案することとなった。今後、国内への普及も含めて推進していきたい。

5.2 日本会議開催

2010年3月に大阪(SC36総会)および東京(オープンフォーラム)で会合が開催される。今後の準備について関係各位のご協力ご支援をお願いしたい。

5.3 今後の予定

2010-03-06/15 大阪・東京, 日本

2010-09 ペンシルバニア, 米国 (Provisional)

<2010年3月以降 国際会議開催スケジュール>

JTC 1	2010-11-08/13	Belfast, UK	SC 27	2010-04-26/27	Malacca, Malaysia
JTC 1 SWG-Directives			SC 28	2010-06-03/11	Rochester, NY, US
	2010-06-08/09	Geneva, Switzerland	SC 29	2010-07-31	Dresden, Germany
SC 2	2011-04-15	Helsinki, Finland	SC 31	2010-05-24/28	北京, 中国
SC 6	2010-09-27/10-01	London, UK	SC 32	2010-05-24, 28	昆明, 中国
SC 7	2010-05-24, 28	新潟, 日本	SC 34	2010-03-26	Stockholm, Sweden
SC 17	2010-10-06/08	高松, 日本	SC 35	2010-08-16/20	南ア/Italy
SC 22	2010-09-13/15	Ottawa, Canada	SC 36	2010-03-08, 12	大阪, 日本
SC 23	2010	未定	SC 37	2010-07-13/21	Malacca, Malaysia
SC 24	2010-06-28/07-02	Busan, 韓国	SC 38	2010-05-12/14	北京, 中国
SC 25	2010-10-22	Seattle, WA, US			

＜2009年のIS, DIS段階の状況＞

表-1 2009年に出版されたISなどの集計

区分		件数	総ページ	平均ページ
IS	IS(初版)	44 (80)	4,151 (14,344)	94 (179)
	IS(改訂版)	29 (51)	3,286 (6,791)	113 (133)
	Amendment	37 (49)	553 (914)	14 (18)
	Tech. Cor.	33 (48)	86 (274)	2 (5)
	小計	143 (228)	8,076 (22,323)	- -
TR	Tech.Report	16 (13)	994 (1,052)	62 (80)
	Amendment	1 (0)	25 (0)	25 (0)
	小計	17 (13)	1,019 (1,052)	- -
合計	160 (241)	9,095 (23,375)	- -	

()内は2008年の数字

表-2 2009年に出版されたDISなどの集計

区分		件数	総ページ	平均ページ
DIS	FDIS/DIS	110 (116)	12,284 (17,957)	111 (154)
	FDAM/DAM	48 (44)	972 (816)	20 (18)
	小計	158 (160)	13,256 (18,773)	- -
DTR	DTR	23 (18)	1,369 (1,903)	59 (105)
	DAM	2 (0)	40 (0)	20 (0)
	小計	25 (18)	1,409 (1,903)	- -
合計	183 (178)	14,665 (20,676)	- -	

()内は2008年の数字

表-3 2009年のSC別NP, CD, DIS, IS各段階の件数集計

SC	NP段階			CD段階			DIS段階			IS段階	
	投票	結果		CD投票	FCD投票	PDTR投票	FDIS投票	DIS投票	DTR投票	IS出版	TR出版
		承認	その他								
JTC1	3 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (3)	0 (3)	3 (0)
SC2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	0 (0)
SC6	2 (5)	2 (5)	0 (0)	12 (6)	5 (22)	0 (0)	24 (5)	10 (3)	2 (2)	7 (15)	2 (0)
SC7	12 (12)	12 (6)	0 (6)	13 (15)	10 (7)	13 (13)	7 (5)	1 (7)	7 (2)	3 (7)	1 (3)
SC17	10 (4)	9 (4)	1 (0)	11 (11)	12 (6)	0 (0)	6 (16)	0 (0)	0 (0)	3 (20)	0 (0)
SC22	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (8)	2 (1)	1 (3)	0 (1)	0 (0)	2 (0)	4 (1)	2 (1)
SC23	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (7)	0 (0)	8 (1)	0 (0)
SC24	3 (2)	3 (2)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	0 (0)
SC25	6 (6)	5 (4)	1 (2)	6 (7)	7 (13)	4 (1)	11 (10)	2 (1)	2 (0)	7 (12)	1 (0)
SC27	4 (11)	2 (4)	2 (7)	22 (15)	13 (16)	1 (2)	15 (11)	0 (4)	1 (1)	18 (17)	1 (0)
SC28	0 (2)	0 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)
SC29	2 (1)	2 (1)	0 (0)	45 (41)	56 (37)	2 (1)	39 (46)	0 (0)	2 (1)	57 (92)	2 (2)
SC31	10 (19)	10 (17)	0 (2)	24 (18)	15 (16)	5 (3)	12 (9)	0 (0)	2 (4)	8 (14)	2 (7)
SC32	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	6 (7)	0 (0)	1 (9)	0 (0)	0 (1)	1 (10)	1 (0)
SC34	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (9)	0 (0)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (9)	0 (0)
SC35	7 (2)	3 (2)	4 (0)	2 (9)	2 (8)	0 (1)	6 (2)	0 (0)	1 (0)	7 (6)	2 (0)
SC36	4 (2)	3 (0)	1 (2)	4 (5)	1 (1)	4 (4)	1 (8)	0 (0)	4 (4)	1 (8)	0 (0)
SC37	8 (8)	8 (7)	0 (1)	26 (18)	19 (8)	0 (4)	12 (3)	0 (0)	2 (0)	6 (5)	0 (0)
合計	72 (76)	61 (55)	11 (21)	179 (160)	154 (155)	30 (32)	143 (138)	15 (22)	25 (18)	143 (228)	17 (13)

1. ()内は2008年の数字

2. NP段階 CD段階およびDIS段階の投票は2009年1月1日から12月31日の間に投票に付された案件の数

3. NP段階の結果は2009年1月1日から12月31日の間に投票期限が到来し、且つ2010年1月末迄に結果が判明した数

4. IS段階の件数は2009年1月1日から12月31日の間に出版された数

5. IS段階の件数には Technical Corrigendum(Cor.)を含んでいるが、DIS以前の段階には Draft Cor.などを含んでいないので、横並びで比較するとき注意が必要

＜2009 年に開催された国際会議および我が国からの出席状況＞

注：日本代表出席者の「他〇〇」は、委員以外および代理出席者数を表す。

会議名	期間	場所	日本代表出席者
JTC1 Plenary	10-18/22	Tel Aviv, Israel	石崎俊(HoD, 慶大), 大蒔和仁(東洋大), 楠正憲(マイクロソフト), 鈴木俊宏(日本オラクル), 関口正裕(富士通), 浅井光太郎(SC29 Chairman, 三菱電機), 小林龍生(SC2 Chairman, IPA), 齋藤輝(SC28 Chairman), 三橋慶喜(SC23 Chairman)
JTC1	03-18	電話会議	木戸彰夫(日本IBM)
JTC1/WG 6	05-18/20	London, UK	平野芳行(HoD, NEC)
JTC1/WG 6	12-02/04	Singapore	平野芳行(NEC)
JTC1 SWG-Directives	02-23/27	Delft, Netherlands	成井良久(ソニー), 平野芳行(NEC)
JTC1 SWG-Directives	07-20/24	Berlin, Germany	木戸彰夫(日本IBM), 鈴木俊宏(日本オラクル)
JTC1 SWG-Directives	10-22/23	Tel Aviv, Israel	大蒔和仁(HoD, 東洋大), 鈴木俊宏(日本オラクル), 関口正裕(富士通)
JTC1 SWG-Planning	01-13	電話会議	鈴木俊宏(日本オラクル)
JTC1 SWG-Planning	07-27/28	Berlin, Germany	鈴木俊宏(日本オラクル)
JTC1 SWG-Planning	12-08/09	電話会議	鈴木俊宏(日本オラクル)
JTC1 SGSN	01-19/23	Sydney, Australia	なし
JTC1 SGSN Workshop	04-15/17	Seoul, 韓国	江村恒一(松下電器)
JTC1 SG on Sensor Network	06-29/07-03	Oslo, Norway	なし
JTC1 Ad hoc on Web Site Improvements	05-27	電話会議	なし
JTC1 SWG-ARM	05-27/29	Geneva, Switzerland	なし
JTC1 SWG-A	06-24/25	電話会議	山田肇(HoD, 東洋大), 鈴木俊宏(日本オラクル), 野村茂豊(日立), 松本充司(早大)
JTC1 SG on Digital Content Management and Protection	07-15/17	北京, 中国	竜田敏男(情報セキュリティ大学院大)
SC2 Plenary	10-30	東京, 日本	関口正裕(富士通), 三上喜貴(長岡技術科学大), 山本知(日立), 小林龍生(Chairman, IPA), 木村敏子(Secretariat, ITSCJ)
SC2 OWG-SORT	04-20	Dublin, Ireland	三上喜貴(長岡技術科学大), 山本知(日立)
SC2 OWG-SORT	10-26	東京, 日本	鈴木俊哉(広島大学), 関口正裕(富士通), 山本知(日立)
SC2/WG2	04-20/24	Dublin, Ireland	関口正裕(富士通), 三上喜貴(長岡技術科学大), 山本知(日立)
SC2/WG2/IRG	06-15/18	香港, 中国	川幡太一(NTTコミュニケーションズ), 高田智和(国語研), 山本知(日立), 小林龍生(SC2 Chairman, ジャストシステム)
SC2/WG2	10-26/30	東京, 日本	関口正裕(富士通), 織田哲治(日本IBM), 川幡太一(NTTコミュニケーションズ), 高田智和(国語研), 鈴木俊哉(広島大), 三上喜貴(長岡技術科学大), 山本知(日立), 山本太郎(アドビシステムズ), 小林龍生(SC2 Chairman, IPA), 木村敏子(SC2 Secretariat, ITSCJ)
SC2/WG2/IRG	11-23/27	Da Nang, Vietnam	川幡太一(NTTコミュニケーションズ), 鈴木俊哉(広島大), 高田智和(国語研), 山本知(日立)
SC2/WG2/IRG Old Hanzi Ad hoc	11-11/13	北京, 中国	鈴木敦(茨城大)
SC6 Plenary	06-05	東京, 日本	山下博之(HoD, IPA), 高山佳久(ソニー), 向井幹雄(ソニー), 脇野淳(沖電気), 戸部美春(NTTアドバンステクノロジー)
SC6 HoD/C	06-03	東京, 日本	山下博之(IPA), 向井幹雄(ソニー)
SC6/SG for Harmonization between NFC and ISO/IEC14443	03-18/19	福岡, 日本	向井幹雄(ソニー), 荻部浩(JBMIA), 高山佳久(ソニー), 中村健一(パナソニック), 山本典久(ルネサステクノロジ)
SC6/SG for Harmonization between NFC and ISO/IEC 14443	09-17/18	Singapore	向井幹雄(ソニー), 荻部浩(JBMIA), 高山佳久(ソニー), 中村健一(パナソニック)
SC6/SG for Harmonization between NFC and ISO/IEC 14443	12-14/15	Berlin, Germany	向井幹雄(ソニー), 荻部浩(JBMIA), 高山佳久(ソニー), 中村健一(パナソニック)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC6/WG1 BRM on DIS12139-1	04-10	Gwacheon, 韓国	荒巻道昌(パナソニック), 黒部彰夫(パナソニック)
SC6/WG1	06-01/03	東京, 日本	鈴木垂矢(ソニー), 高山佳久(ソニー), 中村健一(パナソニック), 向井幹雄(ソニー), 山下博之(IPA), 米田進(ITU関連オブザーバ)
SC6/WG7 (with ITU-T Q.15/11)	01-19/23	Geneva, Switzerland	なし
SC6/WG7 (with ITU-T Q.6/17)	02-12/13	Geneva, Switzerland	なし
SC6/WG7 (with ITU-T Q15/11)	06-01/04	東京, 日本	小倉正則(沖電気), 三宅優(KDDI研究所), 脇野淳(沖電気)
SC6/WG7	09-21/22	Geneva, Switzerland	なし
SC6/WG8 and ITU-T Q2/17	06-01/03	東京, 日本	戸部美春(NTTアドバンステクノロジー), 山口純一
SC6/WG9 and ITU-T WG17	02-11/20	Geneva, Switzerland	なし
SC6/WG9 and ITU-T WG17	09-16/25	Geneva, Switzerland	なし
SC7 Plenary	05-25,29	Hyderabad, India	山本喜一(HoD, 慶大), 小川清(名古屋市工業研), 高橋光裕(IPA), 平野芳行(NEC), 伏見諭(JISA), 村上憲稔(富士通), 山田淳(東芝), 小堀一雄(NTTデータ), 小山條二(富士通), 篠田仁太郎(クロスビート), 高井利憲(産総研), 吉田健一郎(JQA), 鷲崎弘宜(早大), 東基衛(WG6 Convener, 早大), 加藤重信(WG23 Convener), 込山俊博(WG6 Secretariat, NEC)
SC7 AG	05-24	Hyderabad, India	山本喜一(慶大), 小川清(名古屋市工業研), 東基衛(WG6 Convener, 早大), 加藤重信(WG23 Convener)
SC7 SWG1	05-25/29	Hyderabad, India	山本喜一(慶大)
SC7 SWG5	05-25/29	Hyderabad, India	小川清(名古屋市工業研)
SC7 SWG5	11-09/13	Lima, Peru	なし
SC7 LCPHAG	11-08/12	Lima, Peru	村上憲稔(富士通)
SC7/WG2	05-25/29	Hyderabad, India	山本喜一(慶大)
SC7/WG2	10-26/28	Macon, GA, US	山本喜一(慶大)
SC7/WG4	05-25/29	Hyderabad, India	なし
SC7/WG4	11-09/13	Lima, Peru	篠木裕二(日立), 藪田和夫(富士通)
SC7/WG6	05-25/29	Hyderabad, India	山田淳(東芝), 東基衛(Convener, 早大), 込山俊博(Secretariat, NEC), 高橋光裕(Co-Secretariat, IPA)
SC7/WG6	10-19/23	Rome, Italy	東基衛(Convener, 早大), 込山俊博(Secretariat, NEC)
SC7/WG7	05-25/29	Hyderabad, India	村上憲稔(富士通), 小堀一雄(NTTデータ), 高井利憲(産総研)
SC7/WG7	11-08/13	Lima, Peru	村上憲稔(富士通), 木下佳樹(産総研), 小堀一雄(NTTデータ), 高井利憲(産総研), 橋本恵二(東京国際大)
SC7/WG10	05-25/29	Hyderabad, India	小川清(名古屋市工業研), 高橋光裕(IPA)
SC7/WG10	11-09/13	Lima, Peru	小川清(名古屋市工業研), 新谷勝利(IPA), 松下誠(大阪大), 高橋光裕(IPA)
SC7/WG19	05-25/29	Hyderabad, India	なし
SC7/WG19	10-26/29	Malaga, Spain	銀林純(富士通), 宮崎比呂志(富士通)
SC7/WG1A	05-25/29	Hyderabad, India	なし
SC7/WG20	05-25/29	Hyderabad, India	鷲崎弘宜(早大)
SC7/WG20	11-09/11	Lima, Peru	鷲崎弘宜(早大)
SC7/WG21	05-25/29	Hyderabad, India	山本喜一(慶大), 篠田仁太郎(クロスビート)
SC7/WG21	10-26/30	Reading, UK	高橋快昇(富士通), 篠田仁太郎(クロスビート)
SC7/WG22	05-25/29	Hyderabad, India	山本喜一(慶大)
SC7/WG23	05-25/29	Hyderabad, India	加藤重信(Convener)
SC7/WG24	05-25/29	Hyderabad, India	伏見諭(JISA)
SC7/WG24	11-09/13	Lima, Peru	小川清(名古屋市工業研), 新谷勝利(IPA)
SC7/WG25 Planning	05-24	Hyderabad, India	平野芳行(NEC), 小山條二(富士通), 吉田健一郎(JQA)
SC7/WG25	05-25/29	Hyderabad, India	平野芳行(NEC), 小山條二(富士通), 吉田健一郎(JQA)
SC7/WG25	09-14	電話会議	平野芳行(NEC), 小泉浩(マイクロソフト), 小山條二(富士通), 吉田健一郎(JQA)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC7/WG25 Planning	11-11	Lima, Peru	平野芳行(NEC), 小山條二(富士通), 吉田健一郎(JQA)
SC7/WG25	11-12/17	Lima, Peru	平野芳行(NEC), 小山條二(富士通), 吉田健一郎(JQA)
SC7/WG26	05-25/29	Hyderabad, India	なし
SC7/WG26	11-09/12	Lima, Peru	西康晴(電通大), 篠木裕二(日立), 藪田和夫(富士通)
SC7/WG42	05-25/29	Hyderabad, India	小川清(名古屋市工業研)
SC7/WG42	11-09/13	Lima, Peru	なし
SC17 Plenary	09-23/25	北京, 中国	井出野敦弘(全銀協), 江村智之(JBMIA), 苅部浩(JBMIA), 坂本静生(NEC), 谷内田益義(東工大), 中澤明(日本電産サンキョー), 廣川勝久(ECSEC), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG1	03-03/05	Singapore	中澤明(日本電産サンキョー), 齊藤宏一(凸版印刷)
SC17/WG1	06-02/04	Paderborn, Germany	齊藤宏一(凸版印刷), 中澤明(日本電産サンキョー), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG1	09-17/18	北京, 中国	江村智之(JBMIA), 齊藤宏一(凸版印刷), 中澤明(日本電産サンキョー), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG3	06-22/25	Abu Dhabi	酒井高彦(東芝), 榊純一(パナソニック)
SC17/WG3	09-22/23	北京, 中国	寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG3/TF4D	10-20	Pairs, France	寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG4 Ad hoc	01-13/15	Berlin, Germany	寄本義一(凸版印刷), 高木伸哉(パナソニック)
SC17/WG4	03-02/06	Saint-Denis, France	寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG4	05-25/29	Austin, TX, US	谷内田益義(東工大), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG4 Ad hoc	08-24/27	Munich, Germany	坂本静生(NEC), 高木直哉(パナソニック), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG4	10-05/09	Barcelona, Spain	酒井高彦(東芝), 谷内田益義(東工大), 寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG5	09-22	北京, 中国	井出野敦弘(全銀協), 江村智之(JBMIA)
SC17/WG8	04-20/24	Singapore	苅部浩(JBMIA), 清水博夫(東芝), 高山佳久(ソニー), 滝口昌宏(デンソーウェーブ), 向井幹雄(ソニー), 山本英郎(NTT)
SC17/WG8	06/29-07/03	London, UK	門山隆英(ソニー), 苅部浩(JBMIA), 清水博夫(東芝), 向井幹雄(ソニー)
SC17/WG8	11-30/12-04	Valence, France	門山隆英(ソニー), 苅部浩(JBMIA), 清水博夫(東芝), 向井幹雄(ソニー), 山本英郎(NTT)
SC17/WG10	02-23/25	Singapore	榊純一(パナソニック), 寄本義一(凸版印刷), 渋谷貴之(NEC), 水野勝俊(NEC), 他1名
SC17/WG10	06-02/04	Saint-Denis, France	酒井高彦(東芝), 榊純一(パナソニック)
SC17/WG10	09-21/22	北京, 中国	酒井高彦(東芝), 寄本義一(凸版印刷), 他1名
SC17/WG10	11-26/27	Saint-Denis, France	酒井高彦(東芝), 清水博夫(東芝), 福田亜紀(東芝)
SC17/WG11	04-01/03	Austin, TX, US	新崎卓(富士通研)
SC17/WG11	10-26/28	London, UK	坂本静生(NEC), 新崎卓(富士通研)
SC22 Plenary	08-31/09-02	Delft, Netherlands	石畑清(HoD, 明大), 黒川利明(OSK), 高木渉(日立), 吉田秀逸(IPA), 湯淺太一(WG16 Convener, 京大)
INCITS PL22.4	04-27/05/01	Ontario, CA, US	高木渉(日立)
INCITS PL22.4	07-20/24	Las Vegas, NE, US	高木渉(日立)
SC22/WG4	09-30	電話会議	福島秀明(HoD, 富士通), 野村芳明(NEC), 高木渉(Convener, 日立)
INCITS PL22.4(273)	10-12/16	Ontario, CA, US	高木渉(日立)
SC22/WG4/OWG-1, INCITS PL22.4(274)	12-07/11	Las Vegas, NE, US	高木渉(日立)
SC22/WG5	05-04/08	Las Vegas, NE, US	なし
SC22/WG9	06-12	Brest, France	なし
SC22/WG9	11-05	Tampa Bay, FL, US	なし
SC22/WG14	03-30/04-03	Markham, ON, Canada	なし
SC22/WG14	10-26/30	Santa Cruz, CA, US	なし
SC22/WG17	07-17	Pasadena, CA, US	中村克彦(東京電機大)
SC22/WG21	03-01/06	Summit, NJ, US	なし
SC22/WG21	07-13/18	Frankfurt, Germany	なし
SC22/WG21	10-19/24	Santa Cruz, CA, US	なし
SC22/WG23	04-15/17	San Diego, CA, US	なし

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC22/WG23	07-15/17	Ottawa, Canada	なし
SC22/WG23	10-21/23	Santa Cruz, CA, US	なし
SC23 JWG1 (with TC 42)	10-09	東京, 日本	赤平信夫(パナソニック), 入江満(大阪産大), 菅谷寿鴻(東芝リサーチ・コンサルティング), 田中邦麿(帝京平成大), 谷口昭史(パイオニア), 三橋慶喜(SC23 Chairman), 山下経(Convener, 日立), 長澤有由子(SC23 Secretariat, ITSCJ)
SC24 Plenary	07-10	London, UK	青野雅樹(HoD, 豊橋技科大)
SC24 HoD/C	07-07, 09	London, UK	青野雅樹(豊橋技科大)
SC24/WG6	07-07/08	London, UK	青野雅樹(豊橋技科大)
SC24/WG7	07-07	London, UK	青野雅樹(豊橋技科大)
SC25 Plenary	09-11	北京, 中国	山本和幸(HoD)
SC25 PTTT	09-09	北京, 中国	山本和幸
SC25/WG1	09-07/10	北京, 中国	山本和幸
SC25/WG3	03-23/27	Los Cabos, Mexico	渡邊勇仁(旭硝子)
SC25/WG3	09-07/10	北京, 中国	宮島義昭(住友電工), 渡邊勇仁(旭硝子), 林武弘(タイコエレクトロニクスアンプ), 山下耕司(パナソニック)
SC25/WG4	08-07	Salt Lake City, UT, US	なし
SC25/WG4	09-09/10	北京, 中国	なし
SC27 Plenary	05-11/12	北京, 中国	寶木和夫(HoD, 日立), 竜田敏男(情報セキュリティ大学院大), 中尾康二(KDDI研究所), 原田敬(日立), 苗村憲司(WG2 Convener, 情報セキュリティ大学院大), 近澤武(WG2 Secretariat, IPA)
SC27/WG1	05-04/08	北京, 中国	原田敬(日立), 相羽律子(日立), 竹田栄作(JACO-IS), 中尾康二(KDDI), 原田要之助(ISACA東京支部), 山崎哲(日本IBM), 吉田健一郎(JQA)
SC27/WG1	11-02/06	Redmond, WA, US	原田敬(日立), 相羽律子(日立), 菅谷光啓(NRIセキュアテクノロジー), 中尾康二(KDDI), 永沼美保(ラック), 中野初美(三菱電機), 原田要之助(ISACA東京支部), 平野芳行(NEC), 山崎哲(工学院大), 山下真(富士通), 吉田健一郎(JQA)
SC27/WG2	05-04/08	北京, 中国	櫻井幸一(九州大), 大熊建司(IPA), 櫻井玄弥(IPA), 竜田敏男(情報セキュリティ大学院大), 田中俊昭(KDDI研究所), 寶木和夫(日立), 宮地充子(北陸先端科学技術大学院大), 宮崎邦彦(日立), 盛合志帆(ソニー), 安田幹(NTT), 吉田博隆(日立), 苗村憲司(Convener, 情報セキュリティ大学院大), 近澤武(Secretariat, IPA)
SC27/WG2	11-02/06	Redmond, WA, US	櫻井幸一(九州大), 大熊建司(IPA), 酒井康行(三菱電機), 櫻井玄弥(IPA), 佐古和恵(NEC), 竜田敏男(情報セキュリティ大学院大), 田中俊昭(KDDI研究所), チェンユリアン(産総研), 松尾真一郎(NICT), 松尾俊彦(NTTデータ), 宮地充子(北陸先端科学技術大学院大), 盛合志帆(ソニー), 安田幹(NTT), 吉田博隆(日立), 米山一樹(NTT), 渡邊創(産総研), 苗村憲司(Convener, 情報セキュリティ大学院大), 近澤武(Secretariat, IPA)
SC27/WG3	05-04/08	北京, 中国	田邊正雄(NTT), 甲斐成樹(IPA), 近藤潤一(IPA), 寺田真敏(IPA), 松尾真一郎(NICT), 宮崎邦彦(日立), 宮地利雄(JPCERT/CC)
SC27/WG3	11-02/06	Redmond, WA, US	田邊正雄(NTT), 大塚玲(産総研), 近藤潤一(IPA), 武部達明(横河電機), 寺田真敏(IPA), 松尾真一郎(NICT), 宮崎邦彦(日立), 宮地利雄(JPCERT/CC)
SC27/WG4	05-04/08	北京, 中国	中尾康二(KDDI), 相羽律子(日立), 伊藤友里恵(JPCERT/CC), 井上大介(NICT), 塩見友規(OAS), 宮川寧夫(IPA), 村上晴夫(日立), 山本香織(JPCERT/CC), 吉田健一郎(JQA)
SC27/WG4	11-02/06	Redmond, WA, US	中尾康二(KDDI), 相羽律子(日立), 井上大介(NICT), 佐藤しおり(JPCERT/CC), 佐藤慶浩(日本HP), 塩見友規(OAS), 武部達明(横河電機), 中野初美(三菱電機), 平野芳行(NEC), 宮川寧夫(IPA), 村上晴夫(日立), 山下真(富士通)
SC27/WG5	05-04/08	北京, 中国	佐藤慶浩(日本HP), 佐古和恵(NEC), 鈴木俊宏(日本オラクル), 寶木和夫(日立), 竜田敏男(情報セキュリティ大学院大), 林田尚子(富士通研)
SC27/WG5	11-02/06	Redmond, WA, US	寶木和夫(日立), 大塚玲(産総研), 佐古和恵(NEC), 佐藤慶浩(日本HP), 鈴木俊宏(日本オラクル), 林田尚子(富士通研), 平野芳行(NEC), 吉田健一郎(JQA)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC28 Plenary	06-09/12	Busan, 韓国	伊藤丘(コニカミノルタビジネステクノロジーズ), 稲垣敏彦(JBMIA), 大久保彰徳(JBMIA), 小湊弘明, 櫻井穆(JBMIA), 佐田和泉(セイコーエプソン), 杉山元邦(富士ゼロックス), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 藤田徹(セイコーエプソン), 宮下隆明(リコー), 村井和夫(JBMIA), 斎藤輝(Chairman, JBMIA), 熊倉和正(Secretariat, リコー)
SC28 AWG	01-16/17	San Jose, CA, US	大久保彰徳(JBMIA), 宮下隆明(リコー), 臼井信昭(PFU), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 村井和夫(JBMIA)
SC28 AWG	06-08/09	Busan, 韓国	臼井信昭(PFU), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 大久保彰徳(JBMIA), 村井和夫(JBMIA), 宮下隆明(リコー)
SC28/WG2 Editing	06-03/05	Busan, 韓国	仲谷文雄(富士ゼロックス), 平井真紀子(リコー), 宮下隆明(リコー)
SC28/WG2	06-05/06	Busan, 韓国	佐田和泉(セイコーエプソン), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 平井真紀子(リコー), 宮下隆明(リコー)
SC28/WG2 Editing	11-09/13	Vienna, Austria	宮下隆明(リコー), 杉山元邦(富士ゼロックス), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 平井真紀子(リコー), 平田雅一(キヤノン), 松重直樹(キヤノン)
SC28/WG3	06-09	Busan, 韓国	伊藤丘(コニカミノルタビジネステクノロジーズ), 櫻井穆(JBMIA), 佐田和泉(セイコーエプソン)
SC28/WG4	01-22/23	San Jose, CA, US	稲垣敏彦(JBMIA), 今河進(リコー), 藤田徹(セイコーエプソン)
SC28/WG4	06-06/08	Busan, 韓国	稲垣敏彦(JBMIA), 藤田徹(セイコーエプソン)
SC29 Plenary	04-27	Maui, HI, US	守谷健弘(NTT), 浅井光太郎(Chairman, 三菱電機), 小倉由紀子(Secretariat, ITSCJ)
SC29/WG1	01-19/23	San Francisco, CA, US	小野文孝(HoD, 東京工芸大), 佐藤純一(シキノハイテック), 水野雄介(メガチップス), 山田昭雄(NEC), 佐々木元(メガチップス)
SC29/WG1 JPEG-XR Ad Hoc	02-18/19	東京, 日本	岡田貞実(ニコン), 小川茂孝(アイシーティーリンク), 小野文孝(東京工芸大), 佐藤純一(シキノハイテック), 原潤一(リコー), 福原隆浩(ソニー), 水野雄介(メガチップス)
SC29/WG1	04-20/24	Maui, HI, US	福原隆浩(HoD, ソニー), 小川茂孝(アイシーティーリンク), 佐藤純一(シキノハイテック), 山田昭雄(NEC), 佐々木元(メガチップス)
SC29/WG1	07-13/17	Sardinia, Italy	なし
SC29/WG1	10-26/30	西安, 中国	小野文孝(HoD, 東京工芸大), 小川茂孝(アイシーティーリンク), 佐藤純一(シキノハイテック), 福原隆浩(ソニー)
SC29/WG11 Ad Hoc	02-01	Lausanne, Switzerland	大網亮磨(NEC), 金子格(東京工芸大), 鈴木輝彦(ソニー), 妹尾孝憲(NICT), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 他18名
SC29/WG11	02-02/06	Lausanne, Switzerland	妹尾孝憲(HoD, NICT), 伊藤聡(東芝), 伊藤隆(富士通研), 大網亮磨(NEC), 数井君彦(富士通研), 金子格(東京工芸大), 菊入圭(NTTドコモ), 喜多村政賛, 木全英明(NTT), 小暮拓世(パナソニック), 鈴木輝彦(ソニー), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 中山靖茂(NHK), 野村俊之(NEC), 則松武志(パナソニック), 原田登(NTT), 守谷健弘(NTT), 八島由幸(NTT), 浅井光太郎(SC29 Chairman, 三菱電機), 小倉由紀子(SC29 Secretariat, ITSCJ), 他19名
SC29/WG11 Ad Hoc	04-19	Maui, HI, US	大網亮磨(NEC), 志水信哉(NTT), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 妹尾孝憲(NICT), 高村誠之(NTT), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 三淵啓自(デジタルハリウッド大), 他16名
SC29/WG11	04-20/24	Maui, HI, US	妹尾孝憲(HoD, NICT), 大網亮磨(NEC), 数井君彦(富士通研), 菊入圭(NTTドコモ), 小暮拓世(パナソニック), 志水信哉(NTT), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 高村誠之(NTT), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 野村俊之(NEC), 則松武志(パナソニック), 原田登(NTT), 藤井俊彰(東工大), 三淵啓自(デジタルハリウッド大), 守谷健弘(NTT), 浅井光太郎(SC29 Chairman, 三菱電機), 小倉由紀子(SC29 Secretariat, ITSCJ), 他19名
SC29/WG11 Ad Hoc	06-28	London, UK	妹尾孝憲(HoD, NICT), 市ヶ谷敦郎(NHK), 大網亮磨(NEC), 小暮拓世(パナソニック), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 藤井俊彰(東工大), 他19名

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC29/WG11	06-29/07-03	London, UK	妹尾孝憲(HoD, NICT), 市ヶ谷敦郎(NHK), 大網亮磨(NEC), 金子格(東京工芸大), 菊入圭(NTTドコモ), 小暮拓世(パナソニック), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 戸栗康裕(ソニー), 中山靖茂(NHK), 則松武志(パナソニック), 原田登(NTT), 藤井俊彰(東工大), 守谷健弘(NTT), 浅井光太郎(SC29 Chairman, 三菱電機), 小倉由紀子(SC29 Secretariat, ITSCJ), 他21名
SC29/WG11 Ad Hoc	10-25	西安, 中国	市ヶ谷敦郎(NHK), 吳志雄(沖電気), 志水信哉(NTT), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 妹尾孝憲(NICT), 高村誠之(NTT), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 他16名
SC29/WG11	10-26/30	西安, 中国	妹尾孝憲(HoD, NICT), 市ヶ谷敦郎(NHK), 伊藤聡(東芝), 金子格(東京工芸大), 菊入圭(NTTドコモ), 吳志雄(沖電気), 小暮拓世(パナソニック), 志水信哉(NTT), 鈴木輝彦(ソニー), 関口俊一(三菱電機), 高村誠之(NTT), 谷本正幸(名大), 中條健(東芝), 中山靖茂(NHK), 則松武志(パナソニック), 原田登(NTT), 藤井俊彰(東工大), 守谷健弘(NTT), 浅井光太郎(SC29 Chairman, 三菱電機), 小倉由紀子(SC29 Secretariat, ITSCJ), 他17名
SC31 Plenary	06-12	Sydney, Australia	柴田彰(HoD, デンソーウェーブ), 小橋一夫(JEITA), 吉岡稔弘(WG2 Convener, AI総研)
SC31/WG1	01-20	Tampa, FL, US	佐藤光昭(JAISA), 高井弘光(デンソーウェーブ)
SC31/WG1 BRM on FCD 15420	01-20	Tampa, FL, US	佐藤光昭(JAISA), 高井弘光(デンソーウェーブ)
SC31/WG1	04-15	京都, 日本	高井弘光(デンソーウェーブ), 井出由紀雄(リコー), 小澤慎治(愛知工大), 小橋一夫(JEITA), 佐藤光昭(JAISA), 柴田彰(デンソーウェーブ), 武富理恵(リコー), 宗像恒憲(ムナゾウ), 森修子(DSRI)
SC31/WG1	09-14/15	Toulouse, France	佐藤光昭(JAISA), 高井弘光(デンソーウェーブ), 武富理恵(リコー)
SC31/WG2 BRM on FCD 15459-8	04-28	電話会議	吉岡稔弘(AI総研), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG2	06-11	Sydney, Australia	小橋一夫(JEITA), 柴田彰(デンソーウェーブ), 吉岡稔弘(Convener, AI総研)
SC31/WG3	01-20/21	Tampa, FL, US	佐藤光昭(JAISA), 高井弘光(デンソーウェーブ)
SC31/WG3 BRM on CD 29133	04-15	京都, 日本	高井弘光(デンソーウェーブ), 井出由紀雄(リコー), 小澤慎治(愛知工大), 小橋一夫(JEITA), 佐藤光昭(JAISA), 柴田彰(デンソーウェーブ), 武富理恵(リコー), 宗像恒憲(ムナゾウ), 森修子(DSRI)
SC31/WG3	04-16	京都, 日本	高井弘光(デンソーウェーブ), 井出由紀雄(リコー), 小橋一夫(JEITA), 佐藤光昭(JAISA), 武富理恵(リコー), 宗像恒憲(ムナゾウ), 森修子(DSRI)
SC31/WG3	09-14/15	Toulouse, France	高井弘光(デンソーウェーブ), 武富理恵(リコー)
SC31/WG4 BRM on 24791-5	02-09	電話会議	富岡健(富士通), 江原正規(東京工科大)
SC31/WG4 BRM on DTR 24729-3	02-10	電話会議	吉岡稔弘(AI総研), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG4/SG6	02-16	Boca Raton, FL, US	本澤純(日立)
SC31/WG4 BRM on FCD 18000-7.2	02-17	Boca Raton, FL, US	本澤純(日立)
SC31/WG4/SG3	02-17/18	Boca Raton, FL, US	本澤純(日立)
SC31/WG4/SG1	02-19/20	Boca Raton, FL, US	吉澤隆司(日立), 江原正規(東京工科大), 本澤純(日立)
SC31/WG4 BRM on CD 29160	03-09	電話会議	吉岡稔弘(AI総研), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG4 BRM on FCD 15963.1	03-12	電話会議	小橋一夫(JEITA), 渡辺淳(デンソーウェーブ)
SC31/WG4	03-12	電話会議	神藤英彦(日立), 渡辺淳(デンソーウェーブ), 吉岡稔弘(AI総研), 小橋一夫(JEITA),
SC31/WG4 BRM on 15962, 15961	05-11	Dallas, TX, US	富岡健(富士通), 江原正規(東京工科大)
SC31/WG4/SG1	05-11/12	Dallas, TX, US	富岡健(富士通), 江原正規(東京工科大)
SC31/WG4/SG6	05-13	Dallas, TX, US	富岡健(富士通)
SC31/WG4 BRM on PDTR 18047-7	05-13	Dallas, TX, US	富岡健(富士通)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC31/WG4/SG3	05-14/15	Dallas, TX, US	富岡健(富士通)
SC31/WG4/SG1 BRM on CD 24791-1	05-18	電話会議	なし
SC31/WG4/SG5	06-08	Sydney, Australia	小橋一夫(JEITA), 吉岡稔弘(AI総研), 野島敏雄(北海道大)
SC31/WG4/SG7	06-09	Sydney, Australia	本澤純(日立), 小橋一夫(JEITA), 吉岡稔弘(AI総研)
SC31/WG4	06-10	Sydney, Australia	小橋一夫(JEITA), 柴田彰(デンソーウェーブ), 吉岡稔弘(AI総研)
SC31/WG4 BRM on NP 20017	07-09	電話会議	小橋一夫(JEITA), 吉岡稔弘(AI総研), 野島敏雄(北海道大), 坂下仁(リンテック)
SC31/WG4 BRM on CD 18046-2, CD 18046-1	08-24	London, UK	本澤純(日立)
SC31/WG4/SG6	08-24	London, UK	本澤純(日立)
SC31/WG4/SG1 BRM on CD 24753, CD 24791-2, CD 24791-3, CD 24791-5	08-27	London, UK	江原正規(東京工科大)
SC31/WG4 BRM on DTR 18047-7	10-21	電話会議	なし
SC31/WG4	11-10	電話会議	神藤英彦(日立), 小橋一夫(JEITA), 吉岡稔弘(AI総研), 渡辺淳(デンソーウェーブ)
SC31/WG5 BRM on CD 24730-5	03-04	Lustenau, Australia	なし
SC31/WG5	03-04/05	Lustenau, Australia	なし
SC31/WG5	10-15/16	Dublin, Ireland	小橋一夫(JEITA)
SC31/WG5 BRM on NP 24730, FCD 24730-5	10-15/16	Dublin, Ireland	小橋一夫(JEITA)
SC31/WG6 BRM on CD 29143	01-07	電話会議	河合和哉(パナソニック), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG6 BRM FCD 29143	05-19	Cedar Rapids, IA, US	河合和哉(パナソニック), 高井弘光(デンソーウェーブ)
SC31/WG6	05-19/20	Cedar Rapids, IA, US	河合和哉(パナソニック), 高井弘光(デンソーウェーブ)
SC31/WG6 BRM on Work items	11-24	電話会議	河合和哉(パナソニック), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG6 BRM on NP 21451-7	12-02	電話会議	河合和哉(パナソニック), 小橋一夫(JEITA)
SC31/WG7	08-25/26	London, UK	本澤純(日立), 江原正規(東京工科大)
SC31/WG7	11-17/18	Leuven, Belgium	本澤純(日立)
SC32 Plenary	06-22, 26	Jeju, 韓国	鈴木健司(HoD, 東京国際大), 鈴木俊宏(日本オラクル), 土田正士(日立), 堀内一(東京国際大), 安達辰巳(NEC), 大林正晴(管理工学研), 岡部雅夫(東京電力), 梶野智行(ビーコンIT), 小寺孝(日立), 田口麻紀子(NEC), 芝野耕司(WG4 Convener, 東京外語大)
SC32/WG1	02-16/19	Ottawa, Canada	森田勝弘(県立広島大)
SC32/WG1	06-22/26	Jeju, 韓国	なし
SC32/WG1	11-17/20	桂林, 中国	なし
SC32/WG2	06-22/25	Jeju, 韓国	大林正晴(管理工学研), 岡部雅夫(東京電力), 堀内一(東京国際大), 安達辰巳(NEC), 田口麻紀子(NEC)
SC32/WG2 study periods	08-21, 22	武漢, 中国	堀内一(東京国際大), 岡部雅夫(東京電力)
SC32/WG2	11-12/20	London, UK	大林正晴(管理工学研), 岡部雅夫(東京電力), 堀内一(東京国際大), 安達辰巳(NEC)
SC32/WG3	06-19/26	Jeju, 韓国	小寺孝(日立), 鈴木俊宏(日本オラクル), 土田正士(日立)
SC32/WG3	11-16/20	London, UK	小寺孝(日立), 鈴木俊宏(日本オラクル), 土田正士(日立)
SC32/WG4	06-22/25	Jeju, 韓国	鈴木健司(HoD, 東京国際大), 梶野智行(ビーコンIT), 小寺孝(日立), 芝野耕司(Convener, 東京外語大)
SC32/WG4	11-16/20	London, UK	鈴木健司(HoD, 東京国際大), 梶野智行(ビーコンIT), 小寺孝(日立), 芝野耕司(Convener, 東京外語大)
SC34 Plenary	03-27	Prague, Czech	小町祐史(HoD, 大阪工大), 鈴木俊哉(広大), 村田真(国際大), 木村敏子(Secretariat, ITSCJ)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC34 Plenary	09-17	Seattle, WA, US	小町祐史(HoD, 大阪工大), 村田真(国際大), 木村敏子(SC 34 Secretariat, ITSCJ)
SC34 AHG 3	09-15/16	Seattle, WA, US	村田真(国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG1	03-23/24	Prague, Czech	村田真(国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG1	09-15/16	Seattle, WA, US	村田真(国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG1	11-30	Paris, France	村田真(国際大)
SC34/WG2	03-25/26	Prague, Czech	小町祐史(Convener, 大阪工大), 鈴木俊哉(広大)
SC34/WG2	06-19	大阪, 日本	小町祐史(Convener, 大阪工大), 鈴木俊哉(広大)
SC34/WG2	09-15/16	Seattle, WA, US	小町祐史(Convener, 大阪工大)
SC34/WG3	03-24/26	Prague, Czech	なし
SC34/WG3	09-14/16	Seattle, WA, US	なし
SC34/WG3	11-10, 14	Leipzig, Germany	なし
SC34/WG4	01-28/30	沖縄, 日本	石坂直樹(マイクロソフト ディベロップメント), 村田真(Convener, 国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG4	03-24/26	Prague, Czech	村田真(Convener, 国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG4	04-16	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	04-30	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	05-14	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	05-28	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	06-11	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	06-22/24	Copenhagen, Denmark	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	07-16	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	07-23	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	07-30	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	08-13	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	08-27	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	09-13/15	Seattle, WA, US	村田真(Convener, 国際大), 木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG4	10-01	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	10-15	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	10-29	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	11-12	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	12-01/03	Paris, France	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG4	12-18	電話会議	村田真(Convener, 国際大)
SC34/WG5	01-28/30	沖縄, 日本	木村敏子(SC34 Secretariat, ITSCJ)
SC34/WG5	03-24/26	Prague, Czech	なし
SC34/WG5	06-24/26	Copenhagen, Denmark	村田真(国際大)
SC34/WG5	09-15/16	Seattle, WA, US	村田真(国際大)
SC34/WG5	12-03	Paris, France	なし
SC34/WG6	12-04	Paris, France	村田真(国際大)
SC35 GOM	02-18,20	Berlin, Germany	山本喜一(HoD, WG2 Convener, 慶大), 池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 儘田徹(東芝PC & ネットワーク), 中尾好秀(WG4 Convener, JBMIA)
SC35 Plenary	08-22,26	Saskatoon, Canada	山本喜一(HoD, WG2 Convener, 慶大), 池田宏明(千葉大), 大野克行(JBMIA), 関喜一(産総研), 高本康明(富士通), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 中尾好秀(WG4 Convener, JBMIA)
SC35/WG1	02-16/18	Berlin, Germany	中野義彦(JBMIA)
SC35/WG1	08-22/25	Saskatoon, Canada	中野義彦(JBMIA)
SC35/WG2	02-16/20	Berlin, Germany	池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研), 中尾好秀(JBMIA), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 儘田徹(東芝PC & ネットワーク), 山本喜一(Convener, 慶大)
SC35/WG2	08-22,23	Saskatoon, Canada	池田宏明(千葉大), 大野克行(JBMIA), 関喜一(産総研), 高本康明(富士通), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 中尾好秀(JBMIA), 山本喜一(Convener, 慶大)
SC35/WG4	02-16/20	Berlin, Germany	池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研), 山本喜一(慶大), 中尾好秀(Convener, JBMIA)

会議名	期間	場所	日本代表出席者
SC35/WG4	08-23	Saskatoon, Canada	池田宏明(千葉大), 大野克行(JBMIA), 関喜一(産総研), 高本康明(富士通), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 山本喜一(慶大), 中尾好秀(Convener, JBMIA)
SC35/WG5	02-18/19	Berlin, Germany	中野義彦(JBMIA)
SC35/WG5	08-23	Saskatoon, Canada	中野義彦(JBMIA)
SC35/WG6	02-17/19	Berlin, Germany	池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研), 中尾好秀(JBMIA), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 儘田徹(東芝PC&ネットワーク), 山本喜一(慶大)
SC35/WG6	08-23/25	Saskatoon, Canada	池田宏明(千葉大), 大野克行(JBMIA), 関喜一(産総研), 高本康明(富士通), 中尾好秀(JBMIA), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 山本喜一(慶大)
SC35/WG7	02-16/20	Berlin, Germany	池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研), 中尾好秀(JBMIA), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 儘田徹(東芝PC & ネットワーク), 山本喜一(慶大)
SC35/WG7	08-22,23	Saskatoon, Canada	池田宏明(千葉大), 大野克行(JBMIA), 関喜一(産総研), 高本康明(富士通), 中尾好秀(JBMIA), 中野義彦(JBMIA), 野村茂豊(日立), 山本喜一(慶大)
SC36 Plenary	03-23,26	Wellington, New Zealand	仲林清(HoD, 放送大), 平田謙次(東洋大), 岡本敏雄(電通大 WG2 Convener), 西田知博(大阪学院大, WG2 Secretariat)
SC36 Plenary	09-21,25	Umea, Sweden	仲林清(HoD, 放送大), 鷹岡亮(山口大), 平田謙次(東洋大), 岡本敏雄(電通大, WG2 Convener), 西田知博(大阪学院大, WG2 Secretariat)
SC36 SWG/BP	03-23,26	Wellington, New Zealand	なし
SC36 SWG/BP	09-19,24	Umea, Sweden	岡本敏雄(電通大)
SC36 RG1	03-25	Wellington, New Zealand	なし
SC36 RG1	09-24	Umea, Sweden	鷹岡亮(山口大)
SC36 BRM on 29163-1 to 4	03/21	Wellington, New Zealand	仲林清(放送大)
SC36 Training Ad hoc	09-20,22	Umea, Sweden	西田知博(大阪学院大)
SC36/WG1	03-21/22	Wellington, New Zealand	西田知博(大阪学院大)
SC36/WG1	09-22,24	Umea, Sweden	なし
SC36/WG2	03-24	Wellington, New Zealand	岡本敏雄(Convener, 電通大), 西田知博(Secretariat, 大阪学院大)
SC36/WG2	09-20,23	Umea, Sweden	鷹岡亮(山口大), 岡本敏雄(Convener, 電通大), 西田知博(Secretariat, 大阪学院大)
SC36/WG3	03-24/25	Wellington, New Zealand	仲林清(放送大), 平田謙次(東洋大)
SC36/WG3	09-19,22	Umea, Sweden	平田謙次(東洋大)
SC36/WG4	03-25,27/30	Wellington, New Zealand	仲林清(放送大)
SC36/WG4	09-14/17,22	Umea, Sweden	仲林清(放送大)
SC36/WG5	03-21/22	Wellington, New Zealand	平田謙次(東洋大)
SC36/WG5	09-20,23	Umea, Sweden	平田謙次(東洋大)
SC36/WG6	03-24	Wellington, New Zealand	仲林清(放送大)
SC36/WG6	09-24	Umea, Sweden	なし
SC36/WG7	03-21/23	Wellington, New Zealand	仲林清(放送大), 平田謙次(東洋大), 西田知博(大阪学院大)
SC36/WG7	09-20,23	Umea, Sweden	仲林清(放送大)
SC37 Plenary	07-13/14	Moscow, Russia	瀬戸洋一(HoD, 産業技術大学院大), 向井幹雄(ソニー), 新崎卓(富士通研)
SC37 HoD/C	01-18	Kauai, HI, US	瀬戸洋一(産業技術大学院大)
SC37 HoD/C	07-05	Moscow, Russia	瀬戸洋一(産業技術大学院大)
SC37/WG1	01-19/23	Kauai, HI, US	溝口正典(NEC), 栗田寛久(セキュアデザイン研究所)

＜声のページ＞

三つの賞

仲林 清（放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター）

今年度は、図らずも三つの賞をいただくことができた。一つ目は、情報規格調査会からいただいた「標準化貢献賞」である。eラーニングという言葉が世界的に広まりだした10年前にたまたま関連する仕事をしてきたことから、当時新たに設立されたISO/IEC JTC 1/SC 36の活動に参加するようになった。その間、eラーニング業界にも浮き沈みがあったが、現在では、企業、教育機関ともそれなりに普及しており、モバイルラーニングやWeb2.0系の新たな技術も現れてきている。筆者が関係してきたeラーニングコンテンツのSCORM(Sharable Content Object Reference Model)という規格も、業界で広く使われており、このような10年間の継続が認められたものと考えている。

二つ目は、直接の受賞ではないのだが、筆者がかつて開発に関わった学習管理システムを応用した企業内eラーニングの活動事例がe-Learning Worldという展示会でいただいた「日本e-Learning大賞」である。実は、この学習管理システムは、もともと、2000年ごろから筆者の所属していた企業で商品として開発していたのだが、その後、研究開発部門の方針でオープンソース化して公開していた。それを、今回受賞した企業が自社向けに様々な機能を追加して社内の教育研修に適用したのである。このようなプラットフォームシステムは最近なかなかビジネスにならず、筆者も技術者として悔しい思いをしてきたのだが、オープンソースとして公開したものが、直接ではないにせよ賞をいただいたことで、自分のアイデアを盛り込んで開発したものが認められた喜びを味わうことができた。この学習管理システムは、当然上記のSCORM規格にも対応している。

三つ目は、ICCE(International Conference on Computers in Education)という国際学会でいただいた「Best Technical Design Paper Award」である。受賞の対象になったのは、機能拡張可能なeラーニングシステムの構成法に関する論文である。いったん開発したシステムに、機能追加の要求があとからどんどん出てきて、システムがつぎはぎだらけになってしまう、という事例は、情報処理の世界ではおなじみであるが、eラーニングでも同じことが起きる。特に、eラーニングコンテンツでは、教える側の思いや学ぶ側の理解のしやすさが入り混じってこのようなことが起こりやすい。全ての機能を毎回スクラッチから開発すれば要望に何でも応えられるのは自明だが、開発コストは莫大になってしまう。この論文は、このような問題を解決するために、コンテンツ配信システムの機

能モジュールを自由に追加・再利用して組み合わせられるようにし、機能拡張とコスト抑制を両立させる仕組みを提案したものである。この問題意識は、筆者が15年ほど前にこの分野の研究を始めた当初からのもので、数年前に企業を離れたのを契機に、再度組み出したものである。また、機能モジュールを自由に組み合わせられるようにするためには、機能モジュール間インターフェースの標準化が重要な役割を果たす。このような問題意識を認めていただけたことが受賞につながったと考えている。

このように、今年度は、長年取り組んできた、いずれも標準化に関連する仕事に対して三つも賞をいただくことができた。一生の間にこのようなことはもう無いかと思うが、いずれもまだ今後の展開のある仕事であり、継続して励んでいきたいと考えている。

国際会議の一員になるために

中村 敏男（沖ソフトウェア(株)）

ISO/IEC JTC 1/SC 37ではバイオメトリクスの標準化を行っています。私が参加しているWG2はテクニカルインタフェースをテーマとするワーキンググループで、バイオメトリクスのための関数仕様であるBioAPI(バイオエーピーアイ)や、個々のバイオメトリック技術に依存しない共通的なデータフォーマットであるCBEFF(シーベフ)が主な規格です。

私が標準化のための国際会議というものにはじめて参加したのは、7年前の2003年です。はじめて参加してみて、会話の速さや発言者の様々な癖のある発音から英語がうまく聞き取れず、技術的な交渉や商談など1対1で行われる会話にはない難しさをひしひしと感じました。

国際会議に参加してからはじめての2回まではほとんど聞き役ばかりで、ごくまれにコメントに対する意見を求められる際には、議長やエディタから“Japan?”と呼ばれていました。他国の参加者同士が名前呼び合っている中、国際会議の一員として認めてもらうためには、英語の不自由さはあるもののなんらかの自己主張をしない限り、この壁を突破することはできないと思うようになりました。

3回目の国際会議が2004年に韓国で開催された際に、BioAPI規格の中に見つけた課題についてはじめてプレゼンテーションを行いました。大変緊張しましたが、結果的にその内容が認められるとともに、周りの参加者からも名前を覚えてもらうことができ、少しずつ議論の中に入れるようになりました。そして、このプレゼンテーションをきっかけにBioAPIの追補規

